

The Molecular Biology Society of Japan

# MBSJ NEWS

日本分子生物学会

2026.2

No.144

# 会報

## 目次

■ 第49回日本分子生物学会年会・第99回日本生化学会大会 合同大会 (BMB2026) 開催のお知らせ (その2)	1
【大会長の挨拶 その2】	1
【大会組織】	2
【プログラム概要】	3
【フォーラム企画の公募について (応募締切: 2026年5月15日(金)17:00)】	4
【日程表 (予定)】	6
■ 第48回日本分子生物学会年会 (MBSJ2025) 開催報告	7
■ キャリアパス委員会報告	8
■ キャリアパス委員会 年会における発表者の属性統計調査報告	9
■ 年度会費改定について	11
■ シニア会員の年会発表に関する資格要件の変更について	12
■ 第24期第3回理事会記録	13
■ 令和8年度 (第48回) 通常総会記録	21
■ 令和7年度 (2025年度) 決算報告	24
■ 監査報告書	30
■ 令和8年度 (2026年度) 活動予算書	31
■ 学術賞、研究助成の本学会推薦について	33
■ 学術賞、研究助成一覧	34
■ 第24期役員・幹事・各委員会名簿	39
■ 賛助会員芳名	40



特定非営利活動法人  
日本分子生物学会

<https://www.mbsj.jp/>

# 共

～ 広がる生命科学 ～

# 鳴

BMB2026  
Special Symposium  
Speakers



山下 由起子  
(マサチューセッツ工科大学)  
Photo: Greg Kahn (HHMI)



柳沢 正史  
(筑波大学)



David Julius  
(カリフォルニア大学)  
Photo credit: UCSF



Feng Zhang  
(マサチューセッツ工科大学)  
Photo: Allison Colorado

第49回 日本分子生物学会年会

第99回 日本生化学会大会

第49回  
日本分子生物学会年会  
年会長  
水島 昇  
(東京大学)



第99回  
日本生化学会大会  
会頭  
胡桃坂 仁志  
(東京大学)



BMB2026  
YOKOHAMA

## BMB2026 合同大会

■演題登録期間 : 2026年6月15日(月)~7月14日(火) ■早期参加登録期間 : 2026年6月15日(月)~9月30日(水)



# 2026年12月1日(火)~4日(金)

## パシフィコ横浜

<https://www.aeplan.co.jp/bmb2026/>



## 第49回日本分子生物学会年会・第99回日本生化学会大会 合同大会(BMB2026) 開催のお知らせ(その2)

会 期：2026年12月1日(火)～4日(金) ※現地開催 (一部、オンデマンド配信あり)  
会 場：パシフィコ横浜  
大 会 長：第49回日本分子生物学会年会 年会長 水島 昇 (東京大学大学院医学系研究科)  
第99回日本生化学会大会 会 頭 胡桃坂仁志 (東京大学定量生命科学研究所)  
演 題 登 録 期 間：2026年6月15日(月)～7月14日(火) ※予定  
早期参加登録期間：2026年6月15日(月)～9月30日(水) ※予定  
大会事務局連絡先：BMB2026 運営事務局 (株)エー・イー企画内)  
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4階  
Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: bmb2026@aeplan.co.jp  
大会ホームページ：<https://www.aeplan.jp/bmb2026>  
X(旧 Twitter)アカウント：[https://x.com/BMB\\_2026/](https://x.com/BMB_2026/)

### 【大会長の挨拶 その2】

2026年は、第49回日本分子生物学会年会と第99回日本生化学会大会の合同大会「BMB2026」として2026年12月1日(火)～4日(金)の4日間、パシフィコ横浜にて開催されます。第48回日本分子生物学会年会(横浜、昨年12月)は小林武彦年会長と組織委員の皆様のご尽力により盛会にて終了しました。新企画のマッチング企画から最終日の市民公開講座でのバンド演奏まで、熱気に溢れた素晴らしい年会でした。マッチング企画「このゆび、とーまれっ」では、連日、大勢の参加者がポスター会場に集い、新たな交流のネットワークを広げていました。一方、第98回日本生化学会大会(京都、昨年11月)も岩井一宏会頭と幹事の皆様のご尽力により盛会となりました。3名のノーベル賞受賞者をお迎えして日本生化学会創立100周年の記念式典・講演会が行われ、盛大な打ち上げ花火が華を添えました。寒くなり始めた京都が熱気に包まれたような素晴らしい大会でありました。両大会の参加者数はのべ一人を越える盛況ぶり、コロナ以前の活気が完全に復活いたしました。

BMB2026では「共鳴(Resonance)」を大会テーマとしています。日本生物物理学会との連携企画も実施予定です。さまざまな分野の研究者が出会い共鳴し合い、より大きな交流ネットワークの構築がえられる場の創出を目指します。マッチング企画も行う予定です。また、ジャーナルの元編集者による論文執筆公開講座や、若手研究者のキャリア形成を支援する企画など、両学会の次世代の研究者育成のための取り組みも計画しています。

是非とも横浜に現地集合いただき、全ての世代の研究者が喜びを分かち合い、新たなネットワークを構築することを応援したいと思っています。横浜でお会いしましょう！

2026年2月

第49回日本分子生物学会年会 年会長 水島 昇 (東京大学大学院医学系研究科)  
第99回日本生化学会大会 会 頭 胡桃坂仁志 (東京大学定量生命科学研究所)

Looking ahead to 2026, the joint meeting “BMB2026” will bring together the 49th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan and the 99th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society. Thanks to the dedicated efforts of President Takehiko Kobayashi and the Organizing Committee, the 48th Annual Meeting of Molecular Biology Society of Japan (Yokohama) concluded successfully last December. It was vibrant, from the new matching program to the band performance at the public outreach lecture on the final day. The matching program entitled “Kono Yubi, Tomare!” was introduced. Each day, large numbers of participants gathered in the poster hall, expanding networks of new interactions and collaborations.

Likewise, through the great efforts of President Kazuhiro Iwai and the members of the Executive Committee, the 98th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society (Kyoto) was successfully held last November. Three Nobel Prize laureates joined us for the commemorative ceremony and lectures celebrating the 100th anniversary of the Japanese Biochemical Society, accompanied by a spectacular fireworks display that added to the festive atmosphere. It was a truly outstanding meeting, where the crisp early-winter air of Kyoto seemed to be filled with enthusiasm and excitement.

Both meetings enjoyed remarkable attendance, with a combined total exceeding 10,000 participants, demonstrating that the lively atmosphere seen before the COVID-19 pandemic has fully returned.

BMB2026 will be held over four days, from Tuesday, December 1 to Friday, December 4, 2026, at Pacifico Yokohama. The theme of BMB2026 is “Resonance.” Collaboration with the Biophysical Society of Japan is also planned.

By providing a venue where researchers from diverse fields can meet and resonate with one another, we aim to foster the creation of broader and stronger networks of scientific exchange. We are also planning a matching program. In addition, we are preparing initiatives to nurture the next generation of researchers from both societies, including open lectures on scientific writing by former journal editors and programs to support career development for early-career scientists. We strongly hope that researchers of all generations will gather in person in Yokohama, share the joy of scientific discovery, and build new networks together.

We look forward to seeing you in Yokohama!

February 2026

President, The 49th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan:

Noboru Mizushima (The University of Tokyo)

President, The 99th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society:

Hitoshi Kurumizaka (The University of Tokyo)

## 【大会組織】

### < 大会長 >

第 49 回日本分子生物学会年会 年会長 水島 昇 (東京大学大学院医学系研究科)

第 99 回日本生化学会大会 会 頭 胡桃坂仁志 (東京大学定量生命科学研究所)

### < プログラム幹事 >

プログラム委員長 後藤由季子 (東京大学大学院薬学系研究科)

プログラム副委員長 東山 哲也 (東京大学大学院理学系研究科)

プログラム副委員長 東原 和成 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

## 【プログラム概要】

### ◆現地開催（12月1日(火)～12月4日(金)）

スペシャルシンポジウム1企画、大会企画シンポジウム3企画、公募シンポジウム約200企画、フォーラム、一般口頭発表、ポスター発表、サイエンスピッチ（ショートトーク）、高校生発表、市民公開講座

開催形式：本大会は現地開催のみとなります。

※一部シンポジウムのみオンデマンド配信を予定しております。

### ◆スペシャルシンポジウム「BMB2026 Special Symposium」

スペシャルシンポジウムは、世界をリードするさまざまな分野のスピーカーをお招きし、それぞれの専門領域における最前線の研究成果や展望をお話しいただく特別企画です。

開催日時：2026年12月3日(木) 9:00-12:20（予定）

オーガナイザー：水島昇（東京大学）、胡桃坂仁志（東京大学）、  
後藤由季子（東京大学）、東原和成（東京大学）

演者：山下由起子（Whitehead Institute/MIT/HHMI）、柳沢正史（筑波大学）、  
Feng Zhang（The Broad Institute）、David Julius（University of California）

### ◆大会企画シンポジウム「BMB2026 Symposium」(3企画予定)

大会企画シンポジウムは、以下3企画の開催を予定しております。

#### 1. 巧みな分子マシンが拓く生命科学の新フロンティア／Ingenious Molecular Machines: Expanding Frontiers in the Life Sciences

開催日時：2026年12月1日(火) 9:00-11:00（予定）

オーガナイザー：胡桃坂仁志（東京大学）

演者：胡桃坂仁志（東京大学）、沈建仁（岡山大学）、  
岡田康志（理化学研究所）、山下敦子（大阪大学）

In this symposium, we will explore groundbreaking research on molecular machines that operate at the nanoscale to orchestrate life. Presentations will delve into the functional regulation of motor-driven intracellular transport, photosynthesis, sensory receptors, and protein complexes on chromatin. These innovative studies offer remarkable insights into the intricate machinery of life at the molecular level.

#### 2. 命の始まりから終わりまで～細胞運命の制御～／The Journey of Life: Regulation of Cellular Fate from Beginning to End

開催日時：2026年12月2日(水) 9:00-11:00（予定）

オーガナイザー：後藤由季子（東京大学）

演者：西村栄美（東京大学）、林克彦（大阪大学）、  
Kenneth Zaret（University of Pennsylvania）、杉本慶子（理化学研究所）

Understanding how cells acquire, maintain, and eventually lose their identity is fundamental to decoding the entire arc of life—from its inception to aging. In some contexts, cells also exhibit remarkable regenerative potential, allowing tissues to repair or renew themselves. This symposium brings together leading researchers who explore cell fate regulation across different biological systems, life stages, and regenerative processes, using a wide range of approaches.

#### 3. 基礎研究から疾患制御に向けて／From Basic Research to Disease Control

開催日時：2026年12月4日(金) 9:00-11:00（予定）

オーガナイザー：水島昇（東京大学）

演者：中山敬一（東京科学大学）、本田賢也（慶應義塾大学）  
崎崎通介（慶應義塾大学）、柳田素子（京都大学）

Recent advances in basic research are rapidly narrowing the gap between fundamental science and clinical application.

Increasingly, the development of effective therapeutic strategies depends on a deep understanding of core biological processes. In this symposium, leading researchers from diverse fields will present groundbreaking approaches that connect fundamental discoveries with translational impact.

◆公募シンポジウム（約 200 企画予定）

多数のご応募をいただき 1 月 30 日に募集を締め切りました。採否結果は 3 月下旬に応募者へ通知予定です。

◆一般演題（ポスター・一般口頭発表・サイエンスピッチ）

演題登録受付期間：2026 年 6 月 15 日(月)～7 月 14 日(火)

※登録受付期間にご注意ください。

採択された全ての一般演題は、ポスター発表を行っていただきます。

また、一般口頭発表・サイエンスピッチへの採択希望を募り、審査のうえ採択された演題については口頭での発表も行っていただきます。演題申込みに関する詳細は、次回会報および決定次第合同大会ホームページにてお知らせいたします。

なお、演題の登録には、日本分子生物学会・日本生化学会または日本生物物理学会のいずれかの会員であることが必要です。未入会の方はお早めに入会手続きをお済ませください。多数の演題投稿をお待ちしております。本大会では一人一演題の登録を原則とし、複数演題発表は認められません。

◆高校生発表

最終日午後（12 月 4 日(金)）に、高校生による研究発表を予定しています。

◆フォーラム

4 月より日本分子生物学会・日本生化学会の会員の皆様からの企画公募を予定しております。後述の募集要項を参照の上、奮ってご応募ください。

◆ランチョンセミナー

企業との共催によるランチョンセミナーを開催いたします。

◆その他の企画

海外学会コラボ企画、両学会共同企画などの開催を予定しています。詳細は決定次第、合同大会ホームページにてご案内いたします。

その他の企画は詳細が決まり次第、合同大会ホームページにてご案内いたします。

【フォーラム企画の公募について（応募締切：2026 年 5 月 15 日(金) 17:00）】

生命科学と関連するが、シンポジウム形式にとられない、比較的自由度の高い企画や、技術開発あるいは社会との関連が深い企画を「フォーラム」と位置づけ、1 テーマ 90 分の時間枠（12/1、12/2、12/3 18:45～20:15）で、会員の皆様より企画を公募します。

※シンポジウム夜枠と同時進行での開催となります。

※現地開催のみとなります。

学術変革領域、CREST、さきがけ等の「冠」企画の実施も可能とします。

- ・演者選定：班会議と同様の企画にならないよう、領域外の演者を必ず含めてください。
- ・協賛金：会場費や広告費等として 25 万円（税込）の協賛金の負担をお願いいたします。（ホームページやプログラム集に冠表記を記載いたします。

※時間枠による金額の変更はございません。）

※2 団体目以降は、スポンサー同士の了解が得られている事を条件とし、以下の負担金額とします。

2 団体：40 万円（1 団体あたり 20 万円）

3 団体：45 万円（1 団体あたり 15 万円）

4 団体以上：ご相談ください

#### ◆応募要領

大会ホームページより専用の応募サイトにアクセスし、5月15日(金)17:00までに下記の必要情報をご登録ください。

- 1) 開催言語（日本語 or 英語・オーガナイザーが選択）
- 2) タイトル（和文・英文 必須）
- 3) オーガナイザーの氏名・所属（和文・英文）・年代・職位・性別・会員種別  
※企画提案いただくオーガナイザーは1名でも2名でも構いませんが、分子生物学会または生化学会の会員であることが必須です。
- 4) 概要（文字数）：使用言語に応じて日本語（全角400文字程度）あるいは英語（半角800文字程度）のいずれか
- 5) 予定演者の氏名・所属・職位（および、知りうる限りで、年代、性別）・会員種別・内諾の有無
- 6) 連絡窓口となるオーガナイザーの氏名、連絡先
- 7) 予想される聴衆数
- 8) 冠の有無、団体名
- 9) 希望日程

※企画の採否ならびに開催枠の割振りはプログラム委員会で最終決定いたしますので、希望に沿えない可能性もございますこと、ご了承ください。

#### ◆お問合せ先

BMB2026（第49回日本分子生物学会年会・第99回日本生化学会大会 合同大会）事務局

（株エー・イー企画 内）

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4 階

Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: bmb2026@aeplan.co.jp

【日程表（予定）】

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
12/1 (火)	大会企画シンポジウム (120 min) 9:00-11:00		シンポジウム (90 min) 11:15-12:45		ランチョンセミナー (50min) 12:55-13:45	分子生物学会 キャリアパス 委員会企画 (60min) 12:55-13:55		サイエンスピッチ (45min) 14:00-14:45		ポスター発表・討論 (120min) 14:45-16:45	シンポジウム (90 min) 17:00-18:30		シンポジウム/ フォーラム (90 min) 18:45-20:15	ポ ス タ ー 撤 去	
	シンポジウム (120 min) 9:00-11:00		機器・試薬・書籍展示 10:00-17:00												
12/2 (水)	大会企画シンポジウム (120 min) 9:00-11:00		シンポジウム (90 min) 11:15-12:45		ランチョンセミナー (50min) 12:55-13:45	分子生物学会 キャリアパス委員会企 画/JBランチョン ワークショップ (60min) 12:55-13:55		サイエンスピッチ (45min) 14:00-14:45		ポスター発表・討論 (120min) 14:45-16:45	シンポジウム (90 min) 17:00-18:30		シンポジウム/ フォーラム (90 min) 18:45-20:15	ポ ス タ ー 撤 去	
	シンポジウム (120 min) 9:00-11:00		機器・試薬・書籍展示 10:00-17:00												
12/3 (木)	スペシャルシンポジウム (200 min) 9:00-12:20		シンポジウム (120 min) 9:00-11:00		シンポジウム (90 min) 11:15-12:45	ランチョンセミナー (50min) 12:55-13:45	分子生物学会 研究倫理委員会ラン チョン/生化学会 若い 研究者の会 (60min) 12:55-13:55		サイエンスピッチ (45min) 14:00-14:45		ポスター発表・討論 (120min) 14:45-16:45	シンポジウム (90 min) 17:00-18:30		シンポジウム/ フォーラム (90 min) 18:45-20:15	ポ ス タ ー 撤 去
	シンポジウム (120 min) 9:00-11:00		機器・試薬・書籍展示 10:00-17:00												
12/4 (金)	大会企画シンポジウム (120 min) 9:00-11:00		シンポジウム (90 min) 11:15-12:45		ランチョンセミナー (50min) 12:55-13:45	生化学会 タイバーシ ティ推進ランチョン (60min) 12:55-13:55		サイエンスピッチ (45min) 14:00-14:45		ポスター発表・討論 + 高校生発表 (120min) 14:45-16:45	シンポジウム (120 min) 17:00-19:00		市民公開講座 (120 min) 17:00-19:00	ポ ス タ ー 撤 去	
	シンポジウム (120 min) 9:00-11:00		機器・試薬・書籍展示 10:00-16:45												

※あくまで2026年2月時点での予定であり、今後変更される可能性があります

## 第48回日本分子生物学会年会 (MBSJ2025) 開催報告

### 第48回横浜年會を終えて

2025年12月3-5日の横浜年會にご参加いただき有難うございました！

今回はテーマとして「この指とまれ “Let’s gather here, in Yokohama!”」を掲げさせてもらいました。もし、本年會が新しい共同研究やネットワーク形成の一助としてお役に立てたのであれば、大変嬉しいです。

私たち組織委員会は2年前から準備をはじめ、定期的に會合を持ち、毎回楽しく企画の議論を重ねてきました。主催者が楽しみながらやらなければ、年會は楽しくならないのではという、私たちの思いがありました。アンケート結果を見ても、8割以上の方に、今回の全対面方式の開催をご支持いただけました。ありがとうございます。やはり対面開催は聞く方も喋る方も緊張感があって良いですね。

マッチング企画「この指とまれ (ゆびとま)」は、初の試みということもあり、私たちもドキドキでした。蓋を開けてみたら、魅力的な大小40の企画が提案され400名以上の参加があり、大変盛り上がりました。そのまま初対面のメンバーで2次会に行かれたグループもあると聞いています。組織委員の沖先生が中心に進めた「福井の地酒とおつまみを楽しむ企画」も連日用意した食材がすべてあつという間になるほどの大盛況でした。今年の年會でも同様のマッチング企画があると聞いています。フォーラムに加えて分生の新しい「夜の名物イベント」になると良いですね。

もう一つの新しい試みとして、一部の会場に同時翻訳システムを試験的に導入しました。AIの学習ソースがネイティブの英語だったためか、ノンネイティブの英語の翻訳精度はそれほど高くなかったのは少し誤算でした。この問題はおそらく今後改善されると思います。私自身は聞き逃したところを振り返るのに活用しました。こちらもし使い慣れれば大変便利だと思います。あとはもう少し価格が下がって全ての会場で英語→日本語、日本語→英語の翻訳がストレスなくできるようになると、プレゼンの理解や議論が進み、学会の景色が変わってくるのかもしれない。

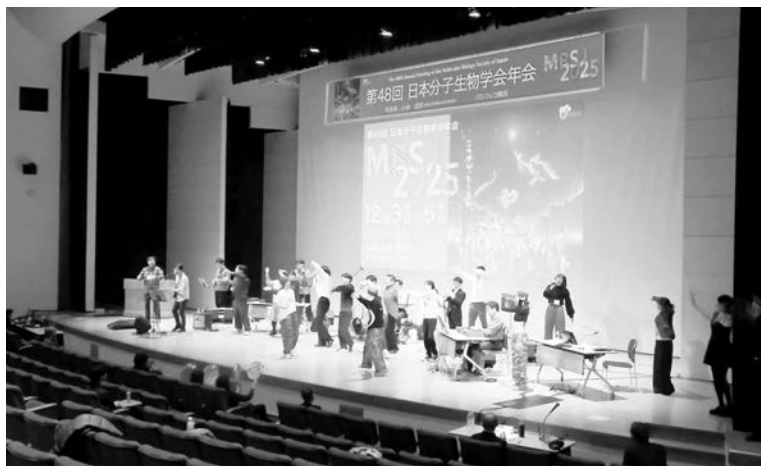
高校生発表には例年の2倍近くの応募をいただきました。口頭発表の進行役の石谷太先生の切れ味のいいコメントもあり、ポスターも合わせてワイワイガヤガヤと盛り上がりました。

市民公開講座にも多くの高校生、一般の方々に参加していただきました。藤泰子先生、石谷太先生に講演をお願いし、その後のパネルディスカッションではいろいろな質問にもお答えいただきました。研究に関わる職業の魅力が、若い方にもお伝えできたと思います。最後は、胡桃坂バンドとダンサーのパフォーマンスで締めくくりました。パフォーマンスは15分間と短かったのですが、アンコールもあり、大変盛り上がりました。一般公募で集まったダンサーのみなさんも大活躍でした。この場でもまた研究者の新しい側面をお見せできたと思います。

本年會で、参加者の皆さんの「何かが変わった」のであれば、組織委員一同この上のない喜びです。

第48回横浜年會組織委員会

小林武彦 (年會長)、平田たつみ、沖昌也、倉永英里奈、中山潤一



## キャリアパス委員会報告

### 第48回日本分子生物学会年会関連報告

#### (1) 演題発表者の属性調査について

今回も第48回横浜年会（MBSJ2025）へオンラインで年会参加登録手続きを行う際の参加登録画面に属性調査項目を設定し、研究者の属性に関するアンケートを行いました。ご協力ありがとうございました。このデータ全体としては年会参加者の属性を示すものですが、本委員会では継続して行っている経年調査の形に合わせてここから演題発表者等のデータのみを抽出し、集計を行いました。結果は学会ホームページへ公開すると共に横浜年会会場でポスター掲示・チラシ配布いたしました。この会報にも掲載しています。

#### (2) 年会企画

第48回年会では「若者たちよ、研究者になろう！」というメッセージを込めて2つのランチタイムセミナーを企画しました。今回の事前アンケートは、学生の博士課程進学や研究職選択に対する不安の要素を探ると共に、博士課程在学中の大学院生や博士号取得者からはその実際を聞く設問構成とし、2025.8.8-29に実施して365名の方から回答がありました。ご協力ありがとうございました。

回答結果から見えてきた学生の不安を払拭するためのアプローチとして、年會初日昼の企画「食いばぐれない研究者としての人生」では、研究を職とする人々が身につけてきたスキルや行ってきた戦略・リスク管理などについて、具体的な事例を通じて探ることとしました（座長：末次正幸委員）。三日目昼の企画「ところ変われば戦略変わる～キャリアパスの最前線～」では、経済的な不安などから進学をためらう学生に向けて、日本各地の国立大学・私立大学・研究所に所属するキャリアパス委員が情報を持ち寄り、参加者の悩みや疑問にも耳を傾けながら、多様なキャリア選択の実例や各機関のサポート制度などについて紹介する時間も設けました（座長：黒岩麻里委員）。参加者数は初日240名、三日目250名と、いずれも盛況となりました。

今回も両企画で双方向コミュニケーションツール「Slido」を導入し、参加者の皆さんから多くのコメント投稿をいただきました。事前アンケートの結果やセッション中に参加者の皆さんからいただいたコメント、三日目の企画で紹介した参考資料「キャリアパス委員の所属大学・研究機関でみる、戦略的に使える推しポイント比較」などは、学会ホームページに公開していますのでぜひご覧ください。なおセッション中の参加者コメントについては、企画の趣旨とは異なるかと判断された投稿の公開は見合わせることにしました。

<https://www.mbsj.jp/activity/careerpath/>

#### (3) バイオテクノロジーセミナーへの協力

一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン（LINK-J）からの提案を受けてキャリアパス委員会が協力することとなり、第48回横浜年会（MBSJ2025）のバイテクセミナー「博士号取得者の多様なキャリア形成を考える」（LINK-J共催・2025年12月4日開催）に香月康宏委員が登壇しました。

### 次世代リーダー育成ワーキンググループに関する報告

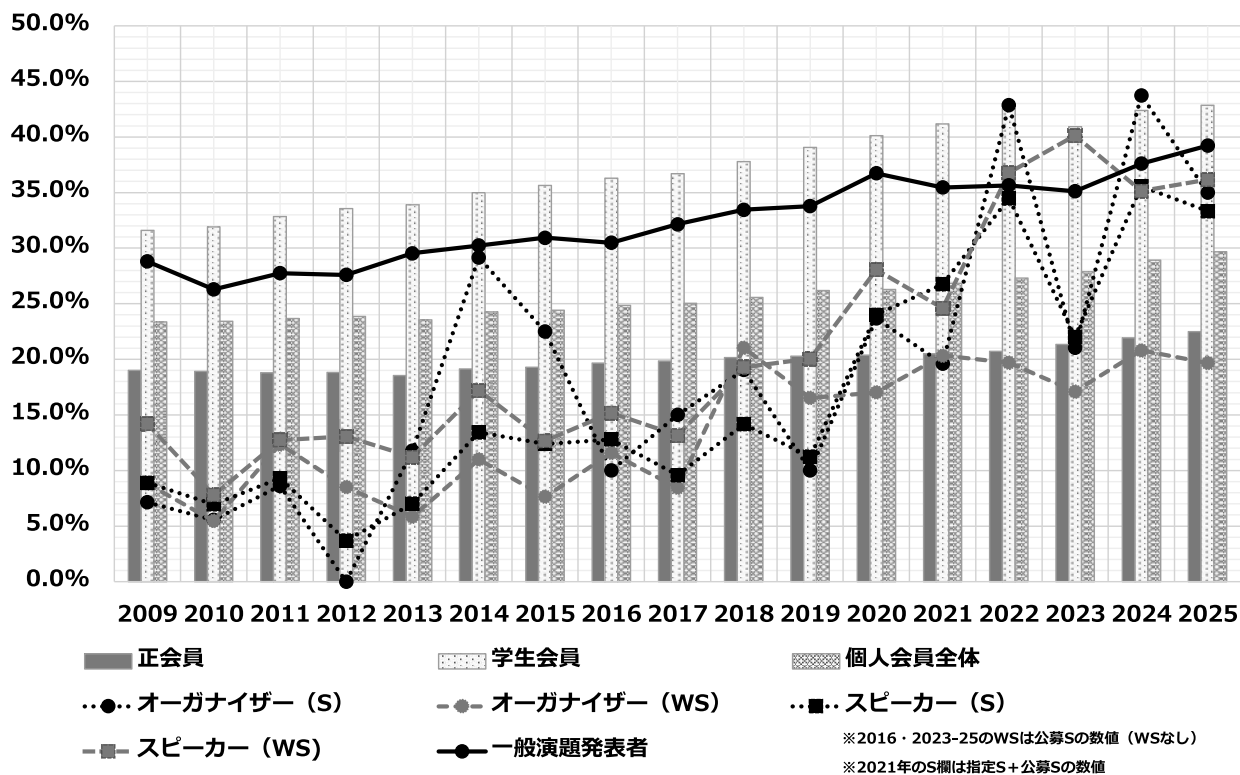
WiSJ（Women in Science Japan）から研究室運営講習会「EMBO リーダーシップコース」の事業を承継する目的でキャリアパス委員会内に次世代リーダー育成ワーキンググループが設置されました（WG委員は39ページ参照）。WiSJでは、本来3泊4日の有料プログラムである事業について、EMBO協力のもと、参加者負担を最小限に抑えた1日の短期特別プログラムとして提供してきました。同WGにおいても同様の形式での実施をめざし、第48回年会翌日の開催を計画していましたが、講師の都合により中止となりました。現在、2026年6月末に都内での開催に向けて準備を進めています。

キャリアパス委員会 委員長 胡桃坂仁志

# バランスの取れた研究環境を築くために

## — 年会における演題発表者等の属性調査 —

日本分子生物学会 年会における属性調査（女性比率の推移）



### 属性調査とは？

研究発表の場においては、性差にかかわらず研究者としてのビジビリティ（可視性）を高めることでその後の研究機会・キャリア獲得などに結び付けることが期待される。シンポジウム・ワークショップのオーガナイザーやスピーカーの多くは正会員であることから、その男女比率が学会会員における男女比率との近似値になることが望ましい。

「シンポジウム・ワークショップなどのオーガナイザー・口頭発表者における女性比率は、学会員全体における女性比率と比べて低いのではないだろうか」という疑問をもとに、年会発表者等が属する性、年齢、職階、発表カテゴリー等（属性）について、2009年度から継続調査を行っている。

### 発表者が決まるプロセスの違い

#### ●シンポジウム・指定シンポジウム

オーガナイザー：年会側が検討・依頼（他薦）

スピーカー：オーガナイザーが検討・依頼（他薦）

#### ●公募シンポジウム・ワークショップ

オーガナイザー：応募者（自薦）から選抜される

スピーカー：オーガナイザーが検討・依頼（他薦）

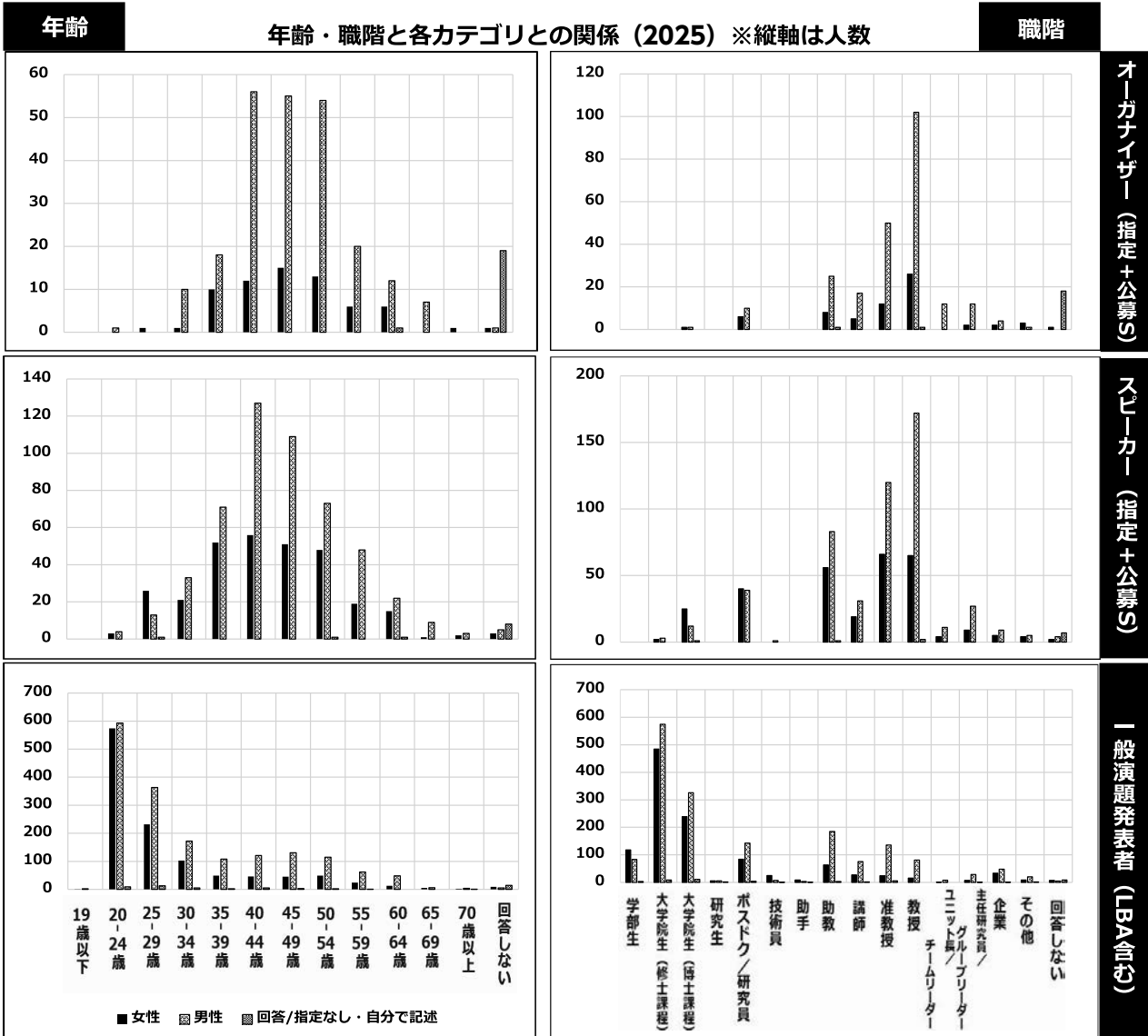
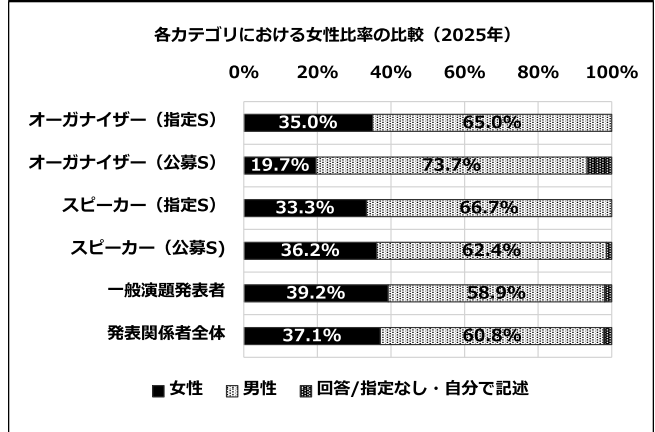
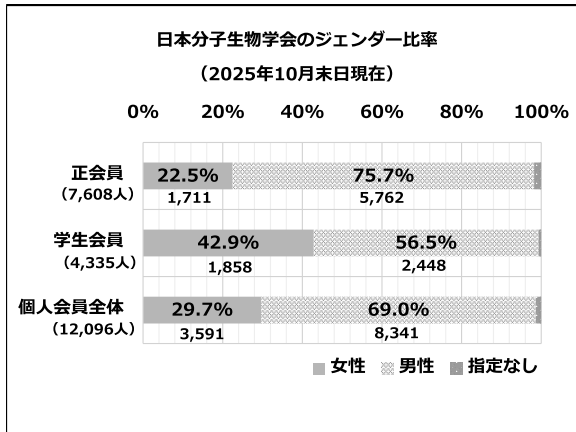
#### ●一般演題発表者

自発的な申し込み（自薦）

第48回年会（MBSJ2025）属性調査においては4,082名が調査対象となった（のべ人数）。

年会の参加登録画面（日英）に、性別、年齢、所属、職階（身分）についてのアンケート設問を設置。ここでは演題登録を行っている、あるいはオーガナイザーリストに含まれている登録者の回答データのみを抽出し集計した。シンポジウムのスピーカーには非会員の演者を含むと共に、本年会では非会員の一般演題投稿も認めているほか、日本生物物理学会会員が分子生物学会会員と同等の資格で参加・発表できるようになっており、その発表者も含まれている。また会員からの「ジェンダーマイノリティにより配慮してほしい」との声を受け、昨年に続き性別の選択肢を「女性/男性/自分で記述する（Self-describe）/回答しない」の4択（回答は必須）とした。

2009年の属性調査開始以来、上記の疑問については「その通りであった」という結果が続いていたが、近年では多くのカテゴリにおいてほぼ女性正会員の比率と同等かそれ以上の女性比率となっている。その理由の一つとして、年会



主催者側によるアフーマティブアクションの試みが続けられている点が考えられる。MBSJ2025では公募シンポジウムの企画公募で募集要項に「指定演者のうち70%以上を特定のジェンダーとしないよう構成をお願いする」ことが記載された。公募シンポジウムスピーカーの女性比率は35%を超えた。今回の募集を契機に、これまでスピーカー経験の少なかった女性研究者の仕事に着目してセッション企画者が後押しするといった効果が期待できる一方、過去の年会開催後のアンケートでは、こうした年会主催者側によるアフーマティブアクションの試みに対し「理解はするが疑問が残る」といった意見も寄せられている。引き続き参加者からのフィードバックに注視していくことが重要である。

ご協力ありがとうございました！

## 年度会費改定について

前号の会報（143号）でもお知らせした通り、2025年9月25日に開催された令和7年度（第1回）臨時総会において、年度会費の改定案が承認され、2026年度より改定後の年度会費が適用されています。

本改定により、学生会員の年度会費は、従来の3,000円から1,000円へ変更され、あわせて入会初年度の会費を無料といたしました。正会員の年度会費につきましては、2007年度の改定以降6,500円に据え置いてまいりましたが、この度の改定により7,500円へ変更となりました。また、正会員と同額である次世代教育会員の年度会費は、2015年度に種別を新設して以来、今回が初めての改定となります。

正会員と次世代教育会員の皆さまには、ご負担をおかけすることとなりますが、何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会員種別	入会金	年度会費	備考
正会員	1,000円	7,500円	
学生会員	1,000円	1,000円（初年度0円）	学生の方
シニア会員	—	3,000円	65歳以上の常勤職に就いていない会員 歴通算20年以上の方
次世代教育会員	1,000円	7,500円	小・中・高等学校の教員またはこれに 準ずる方。所属機関の登録必須
賛助会員	—	1口40,000円	1口以上

※入会金・年度会費は「不課税」です。

※本学会の会計年度は10月1日から翌年9月30日までです。（2026年度：2025年10月1日～2026年9月30日）

※学会の「年度会費」と「年会参加登録費」は異なります。会員として年会に参加し発表を行う場合、入会金や年度会費とは別に、年会参加登録費の納入が必要となります。

※令和7年度（第1回）臨時総会については会報143号をご覧ください。

---

## シニア会員の年会発表に関する資格要件の変更について

2025年12月2日に開催された第24期第3回理事会において、シニア会員の年会発表に関する資格要件の変更が承認されました。

本会のシニア会員は、これまで年会への参加は無料である一方、発表は想定されていない会員種別であったため、発表を希望される場合には正会員へ会員種別を変更する必要がありました。長年に亘り本会の活動を支えてこられたシニア会員の皆さまが、年会において研究成果を発表することの重要性と、発表のために会員種別変更を求められることが負担となっている現状を踏まえ、執行部より資格要件の変更が提案され、理事会において承認されました。これにより、シニア会員であっても、年会参加登録（有料）をおこなうことで、正会員への会員種別変更をおこなわずに年会で発表することが可能となります。

この変更は、本年開催予定の第49回年会（BMB2026）より適用されます。

### 【シニア会員のご案内】

以下の条件に該当する正会員は、ご本人による申請が受理された次年度よりシニア会員となります。手続きの詳細と申請書のダウンロードにつきましては、学会ホームページをご覧ください。

#### ◎シニア会員の条件

1. 申請の時点で65歳以上かつ会員歴通算20年以上の正会員であること
2. 常勤職に就いていないこと
3. 申請する年度までの会費が完納されていること

#### ◎シニア会員になると

1. 年度会費が3,000円となります。
2. 年会に無料で参加できます（発表をおこなう場合は参加登録（有料）が必要です）。<sup>\*</sup>
3. 学会誌「Genes to Cells」（オンラインジャーナル）を引き続き無料で閲覧できます。
4. 総会での議決権は継続されます。
5. 理事選挙の選挙権も継続されます。

※正会員として年会事前登録を完了した後にシニア会員へ変更した場合、年会参加費の返金はできません。

## ◆特定非営利活動法人 日本分子生物学会 第24期第3回理事会記録

日時：2025年12月2日(火)14:00~18:25

場所：パシフィコ横浜会議センター 5階「511+512」

出席者：木村 宏（理事長）、倉永英里奈（副理事長）、後藤由季子（副理事長）、阿形清和、五十嵐和彦、石黒啓一郎、石谷 太（生命科学教育担当）、上村 匡（Genes to Cells 編集長兼）、鐘巻将人、糸 昭苑、胡桃坂仁志、斎藤通紀、佐田亜衣子、塩見美喜子、中山敬一、中山潤一（広報幹事兼）、二階堂愛、濡木 理、林 克彦、原 英二、東山哲也、三浦正幸、吉森 保、井関祥子（監事）、塩見春彦（監事）、岩崎由香（庶務幹事）、中川真一（庶務幹事）、稲田利文（会計幹事/2028年会長）、深川竜郎（編集幹事）、岡田由紀（国際化担当幹事）、小林武彦（2025年会長）、水島 昇（2026年会長）、杉本亜砂子（2027年会長）、以上33名

欠席者：大谷直子、近藤 滋、高橋淑子、中島欽一、中西 真、三浦恭子、山本 卓、以上7名

事務局：並木孝憲（記録）、金子香奈里、丸山 謹、山口恵子

本理事会成立について：

中川真一庶務幹事より、理事23名、監事2名、幹事5名、年会長3名が出席し、委任状7名（理事）を受任しており、本理事会は細則第4章第8条により成立する旨報告された。

議事録署名人の選任について：

木村宏理事長より、議事録署名人として、佐田亜衣子理事と原英二理事が指名され、承認された。

議 事：

### 1. 報告事項

#### 1) 執行部報告

##### ・理事長報告

木村理事長より、本年の事業活動に関する以下の点について報告が行われた。

- ・**年度会費の改定**：本年9月25日にオンライン開催した令和7年度（第1回）臨時総会で年度会費の改定案が承認され、10月から新しい年度会費が適用された。約20年にわたり据え置かれていた年度会費を改定することとなった背景の一つに、来年の第49回年会在日本生化学会との合同開催（BMB2026）であること、かつ日本生物物理学会とも連携を行うということがある。これら

2学会は学生会員の年度会費を無料としており、分子生物学会の学生会員年度会費は改定前3,000円であった。物価高などの影響で生活費の負担が大きくなっている学生の年度会費を減額する方向で検討する一方、学生から会員になる意思や帰属意識を持ち「お金を払っても入会したい」としてもらえる魅力的な学会にすべきとの意見も寄せられた。そこで学生会員は毎年1,000円を納入する形とし（初年度は入会金1,000円・年度会費0円、次年度以降は年度会費1,000円）、正会員・次世代教育会員にはその分の負担をお願いして年度会費6,500円から1,000円の値上げを行い7,500円とすることとなった。

- ・**生物物理学会との連携**：生物物理学会とは現在2025年に開催される双方の年会上に両学会の会員が同じ会員資格で参加・発表できることになっている。本年9月に奈良で開催された第63回日本生物物理学会年会上には本学会から17名の会員が参加したとのことである。同学会からの打診は二年間の連携だが、生物物理学会の学生会員年度会費は無料であるため、連携が続くことで分子生物学会に少なからず影響が生じる可能性がある。2027年以降については、それまでの二年間の状況をみて検討する必要がある。
- ・**EMBOとの連携**：今年の第48回年会上では、EMBOのEditorであるZeljko Durdevic氏に「Poster Clinic by EMBO Press」の担当をお願いしている。また、同氏には学会企画/MBSJ Forum「著者からエディターへ：日本の科学を世界へ発信する橋渡しになろう」のパネリストにも加わっていただく予定である。分子生物学会では、EMBOの取り組みに関する記事をHP掲載するなど広報協力も行っている。
- ・**科研費**：今期の科研費増額等要望活動については、東原和成生物科学学会連合（生科連）代表、後藤由季子副理事長（前理事長）と木村理事長を中心に働きかけを続けていく。
- ・**Genes to Cells**：上村編集長、深川編集幹事と共に、今後のジャーナルのあり方について継続的に意見を交わしている。Genes to Cellsを活性化し、ジャーナルの収益向上を通じて会員への還元につなげていく。
- ・**学会創立50周年事業**：執行部において稲田会計幹事（第51回年会長兼）をコーディネーターとし、杉本第50回年会長、上村編集長、木村理事長と

連携して企画の検討を行うことを確認した。年会企画やジャーナル企画など、50周年事業の検討が重ねられている。

- ・国際対応予算の使途：8月の臨時理事会において、次世代リーダー育成ワーキンググループによるEMBOリーダーシップコースの開催補助金として50万円、また第48回年会で導入予定のAI同時通訳サービスの一部費用として100万円をサポートすることを決定した。
- ・FAOBMB2029の協賛依頼：分子生物学会あて、FAOBMB2029への協賛依頼が寄せられた。協賛学会の会員に適用される登録料の予定額が示されたほか、本協賛依頼は、FAOBMB主催学会である生化学会の2029大会や同年に開催される国内の各協賛学会との連携を含むものではなく、FAOBMB2029のみとの回答がなされている。本理事会で共有のうえ手続きを進める。
- ・その他：本年4月、「小胞体」の名称変更を検討する細胞小器官用語検討委員会によるパブコメ募集の周知に関し会員ML配信を行った。その後の進捗として、同検討委員会の水島昇委員長より、国際水準に合わせて名称を変更する方向であることが共有された。このほか、理事会、各種委員会等の旅費支給内規の見直しや共同利用拠点申請に関する依頼対応などの詳細報告がなされた。
- ・科学研究費助成事業（科研費）早期倍増運動の経過報告

後藤副理事長（前理事長）より、まず、日本の研究力改善のために科研費の増額をめざしたこの一連の運動は分子生物学会が興したものであり、前期執行部・理事各位の協力にあらためて謝辞が述べられた。本件は、2023年12月の理事会（神戸）において承認され、その提案を受けた生科連が主体となり、様々な分野の学会連合の賛同を得て、文部科学大臣に要望書を手交した。

その後、経団連による科研費の早期倍増を求めた要望などを背景に、第7期科学技術・イノベーション基本計画において「科研費等の競争的研究費や基盤的経費（国立大学法人等の運営費交付金等）によるデュアルサポート強化」といった、本学会が重点的に取り組んできた要望が検討されていることについて説明がなされた。

#### ・会員現況

中川庶務幹事より、2025年10月31日現在の会員数につき以下のとおり報告された。

名誉会員	0名
正会員	7,563名（海外在住175含む）
シニア会員	137名

次世代教育会員	16名
学生会員	4,314名（海外在住145含む）
賛助会員	20社
合計	12,050名（前年11月対比、-4）

（\*上記以外に所定の手続きによる休会者66名あり）

#### ・生物科学学会連合について

中川庶務幹事より生科連の2025年の活動状況につき説明された。

#### ・ホームページとSNSについて

中山潤一広報幹事より学会ホームページの運用状況として、2025年度にのべ493件の記事を掲載したことが報告された（前年度比、+43）。現在、2007年以来となるHPの全面リニューアルを進めており、掲載内容やサイト構成の再構築に加え、ユーザーの利便性向上を目的としたデザイン改修を実施している。また、コンテンツ管理および更新作業の効率化を図るため、WordPress（CMS）を導入した。リニューアル後のHPは、第48回年会終了後、12月中の公開を予定している。

本学会では、2025年4月より新たなSNSとしてBlueskyの運用を行っている。日本の研究の海外での認知度アップをめざし、Genes to Cellsに掲載された論文の英語での著者コメント等を発信しており、現在のフォロワーは36となっている。このほか、X（旧Twitter）のフォロワーは1,271、Facebookは2,050（いずれも2025.11.20現在）で、学会HPの更新情報や年会情報などを発信している。

#### 2) 第48回（2025年）年会について

小林武彦第48回年会長より、配付資料に基づき詳細報告がなされた。本年会は、参加者に対面で議論することの喜びを感じてもらおうべく、「この指とまれ“Let's gather here, in Yokohama!”」をテーマに、6年ぶりに現地開催のみのフォーマットを採用した。また、日本生物物理学会との連携により、同学会の会員は本学会会員と同等の資格で年会に参加・発表できることとした。早期参加登録は4,508名、発表演題数は3,751演題とコロナ前の規模に戻っており、年会収支に重要な協賛収入も順調である。

プログラムとしては、指定シンポジウム10テーマ、公募シンポジウム152テーマ、フォーラム16テーマ、ポスター2,926題（一般演題2,180題、LBA746題）、高校生研究発表は口頭+ポスター24題、ポスターのみ50題と多くのお申込みをいただいた。

また今回、新たな出会いの場となることをめざしたマッチング（交流）イベント「このゆび、とーまれっ」を実施する。同じ目標に向かって努力されて

いる方や、共通する課題を抱えている方が出会い、参加者同士が語り合い新しいつながりが生まれることを期待している。一部シンポジウムに試験導入したAI同時通訳サービス「Sentio」については、その機能、利便性が年会参加者に有用なツールとなり得るものかを確認したい。

その他の年会特別企画として以下を準備した。明日からの年会運営に際し、理事各位のご協力をお願いしたい。

- ・MBSJ2025ポスター賞 (MBSJ-EMBO Poster Award)
- ・シニアサイエンティスト企画
- ・Poster Clinic by EMBO Press
- ・市民公開講座

### 3) 第49回(2026年)年会準備状況

水島昇第49回年会会長より、2026年(日本生化学会との合同大会)の年会準備状況につき報告がなされた。

○会期：2026年12月1日(火)～4日(金)の四日間

○会場：パシフィコ横浜

○組織委員：

第49回日本分子生物学会年会

年会会長 水島 昇 (東京大学)

第99回日本生化学会大会

会 頭 胡桃坂仁志 (東京大学)

プログラム委員長 後藤由季子 (東京大学)

プログラム副委員長 (分生)

東山 哲也 (東京大学)

プログラム副委員長 (生化)

東原 和成 (東京大学)

大会テーマは「共鳴～広がる生命科学～」とした。

両学会が共鳴するというだけでなく、参加する全員がお互いに共鳴し合って新しい研究につながることを期待している。二つの大規模学会による合同大会であり、大きな視野の構成にしたいとの考えから、スペシャルシンポジウム(1企画)と大会企画シンポジウム(3企画)は多くの参加者が集まれる幅広い企画とし、いずれも午前のシンポジウムと並走する形とした。公募シンポジウムについては(約200企画予定)、それぞれ以下のように定義した。

- ・**120分枠**：異なる分野の研究者にとっても有益となる、広がりのある企画を期待する。大きな視点の生物学を議論し、参加者が新たな研究の方向性を模索することを目的とする。
- ・**90分枠(昼)**：特定のトピックを掘り下げた企画を期待する。最新の研究成果や課題を共有し、参加者がその分野に対する理解を深めることを目的とする。

・**90分枠(夕・夜)**：新しい概念の企画を期待する。新しい視点や技術に基づく、新分野の創出や革新的な概念の提案を目的とする。

また、日本生物物理学会からの連携依頼が二年間であったことから、第48回年会に続きBMB2026においても、同学会の会員が分生・生化の会員と同等の資格で参加・発表できることとしている。

### 4) 第50回(2027年)年会準備状況

杉本亜砂子第50回年会会長より、2027年の年会準備状況につき報告がなされた。

○会期：2027年11月23日(火)～26日(金)の四日間

○会場：福岡国際会議場、マリンメッセ福岡A館・B館

○組織委員：

年会会長 杉本亜砂子 (東北大学)

組織委員 加納 純子 (東京大学)

組織委員 茂木 文夫 (北海道大学)

組織委員 高橋 達郎 (九州大学)

開催方針について以下の説明が行われた。

- ・第50回という節目の年会であることをふまえ、会期を四日間とし、パラレルで行われる講演セッション数を減らすことで、全体としてゆったりとしたプログラム編成とする。
  - ・ポスターの時間も十分に確保する。ポスターは1日ずつ貼り替えるが、発表・討論の時間を例年(演題番号奇数/偶数各1時間)よりも長くする方向で調整する。また最終日もポスター発表を行うこととし、早い時期からスケジュールを参加者に周知する。ディスカッサー制など、発表者をエンカレッジして会場を盛り上げる仕掛けも検討したい。
  - ・展示会場内に50席程度の特設講演会場を複数設置したい。
  - ・キッチンカーやお土産コーナーを充実させ、参加者に楽しんでもらいたい。
  - ・オンサイト開催を中心としつつ、ライブ配信も全体予算に応じて検討したい。オンデマンド配信はおこなわない。
  - ・分子生物学会50周年記念事業として、これまでの50年を振り返り、次の50年を見据えた「記念シンポジウム(6セッション)」と「最終日企画(一般公開あり)」を組織委員会企画として開催したい。木村理事長、上村編集長と連携し、企画を検討している。
- ### 5) 第51回(2028年)年会について
- 稲田利文第51回年会会長より、2028年の年会について報告がなされた。
- 会期：2028年11月29日(水)～12月1日(金)の三日

間 (予定)

○会場：福岡国際会議場、マリンメッセ福岡 A 館・B 館

○組織委員：

- 年会長 稲田 利文 (東京大学)
- 組織委員 有田 誠 (慶應義塾大学/理化学研究所)
- 組織委員 稲葉 謙次 (九州大学)
- 組織委員 武川 陸寛 (東京大学)
- 組織委員 倉永英里奈 (京都大学/東北大学)
- 組織委員 林 悠 (東京大学)

記念すべき第 50 回年会の翌年にあたる本年会では、その先の 50 年を見据え、分子生物学会が生命科学の方向性を考える場を提供したいと考えている。そのため、開催方針として以下の 3 点を掲げる。

- ・幅広い分野で活躍する組織委員と共に、分子生物学会ならではの学際的な企画を検討する。
- ・年会の国際化を推進するため、KSMCB (韓国分子細胞生物学会) との連携企画を行う。
- ・次の 50 年について、若手研究者が自由な発想で発表できるような企画を実施する。

#### 6) Genes to Cells 編集報告

深川竜郎編集幹事より、配付資料に基づき報告が行われた。

Genes to Cells は本年 1 月から上村匡 4 代目編集長が任に就いている。生命科学を取り巻く様々な変動に柔軟に対応し、多くの優れた論文の出版をめざし、10 月 1 日付で一部編集委員の入れ替えを実施した。国内外から新たに 17 名をお招きしている。

昨年までは、校了して出版準備が整った論文はオンラインで先行出版され、目次が確定して正式出版となるまでにしばらくインターバルがあった。2025 年 1 号からの Continuous Publication 移行により、各号の目次は空の状態スタートし、新たな論文が追加され目次がその都度更新されていく。全ての論文が校了後すぐに正式出版されることで、より一層の迅速化が実現しており、投稿数も堅調に推移している。

続いて上村編集長より次の 3

1	Genes to Cells	Journal Metrics
	Impact Factor:1.3/Cite Score:2.5	Impact Factor:1.3/Cite Score:2.5
100	Managing Editor	Review Meeting
Report	Review	

2

誌創刊時より編集委員を務めている委員から、近年、投稿者がハンドリングする Academic Editor や Preferred Referee を指定しない投稿が増えているとの指摘があったことである。投稿サイト等でもこの点が著者に伝わるようにしていく。3 点目として、Genes to Cells 創刊 30 周年を記念した “Opinion Series” 企画の基本構想が伝えられ、理事会関係者に意見提供が求められた。

次いで、Genes to Cells の編集委員も務める出席理事より、日本のサイエンスコミュニティーで支え合って対応することの良さも理解できるが、一般論として、レフェリーをボランティアで引き受けることにも限界があり、有力ジャーナルにみられるように、エフォートを割く時間を対価で補償するような仕組みが必要ではないかといった意見が出された。上村編集長からは、新たな編集委員を含め、論文のハンドリングなどで不明な点があれば編集室へお問合せいただきたいとのコメントがあった。また、深川編集幹事より、APC (オープンアクセス出版に係る費用) が高騰を続けているなかで、基本無料で投稿できるジャーナルの存在意義もあり、学会として会員への働きかけをしていきたいとの考えも示された。

#### 7) 各種学術賞、研究助成候補への学会推薦状況について

高橋淑子賞推薦委員長代理、三浦正幸委員より、2025 年に本学会より推薦した各種学術賞について報告がなされた。引き続き、塩見美喜子研究助成選考委員長より、2025 年の研究助成推薦状況と結果等について報告が行われた。

#### 8) キャリアパス委員会報告

胡桃坂仁志キャリアパス委員長より、配付資料に基づき委員会の活動内容が報告された。本年会においては以下 2 企画のランチタイムセミナーを開催するので、理事各位には積極的に参加いただきたい。

「食いっぱぐれない研究者としての人生」(年会初日/12 月 3 日)

「ところ変われば戦略変わる ~キャリアパスの最前線~」(年会 3 日目/12 月 5 日)

(\* 事前アンケート (2025.8.8-29) には 365 名の回答を得た)

次いで、WiSJ (Women in Science Japan) から研究室運営講習会「EMBO リーダーシップコース」の事業を承継する目的でキャリアパス委員会内に設置された次世代リーダー育成ワーキンググループについて、平谷伊智朗 WG 座長に代わり岡田由紀国際化担当幹事より報告がなされた。WiSJ では、本来 3 泊 4 日の有料プログラムである事業について、

EMBO 協力のもと、参加者負担を最小限に抑えた1日の短期特別プログラムとして提供してきた。同WGにおいても同様の形式での実施をめざし、第48回年会翌日の開催を計画していたが、講師の都合により中止となった。現在、2026年6月末に都内での開催に向けて準備を進めている。

#### 9) 研究倫理委員会報告

糸昭苑研究倫理委員長より、今年の研究倫理ランチョンセミナーの内容について報告が行われた。

#### ○AMED 共催：研究倫理委員会企画・研究倫理ランチョンセミナー

「研究不正を考える — 私たちが何をすべきか？」  
(年会2日目/12月4日)

研究の公正性を守ることは、科学の信頼性を支える基盤である。しかし、一度不正が起きると、その調査には多くの時間と労力を要し、関係した研究者の今後の活動にも大きな影響を及ぼすおそれがある。そこで今回のセミナーでは、日本医療研究開発機構 (AMED) の松室寛治氏より、これまでに報告された研究不正の事例やその背景を紹介いただき、不正はなぜ起きるのか、またどのように防ぐことができるのかについて、聴衆と共に考える。続いて、慶應義塾大学理工学部の塚田祐基氏より、AMED発行の解説冊子に基づき、主要論文誌の投稿規定、ならびに画像データを取り扱う際の考え方や具体的な処理方法について解説いただく。

講演終了後には、研究倫理委員の登壇によるパネルディスカッションを行うので、理事会関係者においても積極的な参加をお願いしたい。また、本セミナーに参加できない方々にも内容を共有するため、後日、全文記録を公開する予定である。

#### 10) 生命科学教育について

石谷太生命科学教育担当理事より、配付資料に基づき、2025年における高校などへの講師派遣の実施状況、ならびに第48回年会における高校生研究発表会の状況について報告があった。

高校などへの講師派遣については、昨年より学会が派遣講師への交通費の一部をサポートしているが、本年1月の執行部会議での検討により、規定額を超える差額分の実費についても学会がサポートすることとなった。本事業の運営にあたり、将来的には財団や企業から講師謝金に関する支援を受けられるよう、趣意書を作成したいとの考えが石谷担当理事より示された。

例年同様、年会最終日(12月5日)のポスター時間帯に口頭発表とポスターが予定されている。昨年の理事会における検討事項であった高校生発表の参加条件の見直しについては、執行部からの提案を

ふまえて検討を行い、第48回年会より以下の3点を高校生発表の参加申込ページに追加したことなどが報告された。

- ・適切な研究活動を進めるため、中等教育における研究倫理(公正研究推進協会 [APRIN]) [※当該ページへリンク]などを参考にして研究倫理について学ぶことを推奨します。

- ・ヒトを対象とした研究発表をおこなう場合は、個人情報保護関連法令・例規に基づき、データを適切に取り扱うようにしてください。

- ・研究発表において生成AIが出力した内容を引用する際は、出典として明記することを推奨します。(記載例：[生成AIの名称]、[バージョン情報]、[URL]、[利用した部分])

また、出席理事より、分子生物学会の高校生研究発表が、甲子園のような大規模な発表会となることを期待したいとのコメントが提出された。

《第48回年会における高校生研究発表会：発表件数は次のとおり》

- ・口頭発表 24 演題・ポスター発表 74 演題・参加校 40 校

(口頭発表はのべ42演題の応募があり、担当理事による絞り込みを行った)

#### 2. 審議事項

##### 1) 令和7年度(2025年度)決算承認の件

稲田利文会計幹事より令和7年度活動計算書の収支について詳細説明がなされた。

本決算は本年10月28日に宮城秀敏公認会計士の監査を受け、さらに同年11月7日に井関祥子監事、塩見春彦監事による会計監査を受け、配付資料のとおり監査報告書が提示されている。その決算概要であるが、前期繰越正味財産額1億8,714万円に対し、次期繰越正味財産額は2億782万円と約2,068万円の黒字決算となった。昨年の第47回福岡年会の決算において、本部補助金500万円を差し引いた年会終了後の残額が約2,118万円となり、今回の大幅な黒字を牽引した。また、今年の第48回横浜年会も非常に順調で、夏の演題募集時期に1,700名の入会があり、会費収入が見込み予算通りとなったこともプラスの要因と言える。さらに、事業費の内訳表に基づき、各事業科目別の収支についても説明がなされた。本決算においては、消費税約338万円を納めており、税務処理については顧問契約を交わしている税務専門家の指示のもと、収益事業部分の法人確定申告を行った。

続いて、塩見監事より11月7日に学会事務所において、井関監事と共に会計監査を実施し、監査報告書に記載したとおり、帳簿ならびに会計証憑類は

正確に整えられており、各金融機関の通帳と残高証明書すべてを確認し、同決算を認めたことが報告された。

審議の結果、本決算は理事会で承認され、第48回通常総会に諮られることとなった。

## 2) 令和8年度(2026年度)活動予算書承認の件

稲田会計幹事より、令和8年度活動予算書と同活動予算・事業費の内訳について説明が行われた。来年度の年会は生化学会との合同開催となるが、過去の合同大会において新規入会者が減る傾向がみられることから、新規入会にかかる入会金と会費収入はそれを反映した予算としている。Genes to Cellsの出版収入は、今後も円安が続くものと予想し、利益折半2,000万円+定額編集補助100万円の計2,100万円を見込んでいる。年会収支科目以外の事業科目、管理費科目は、前年度決算の実績をふまえ、数字を反映させている。経常費用において、国際対応予算の150万円は、第48回年会で試験導入されるAI同時通訳サービスと来年6月に開催を予定しているEMBOリーダーシップコースにかかるものである。また、昨今の物価高騰や円安の影響により、20年ぶりに会員データベースサーバの運用・保守費用が改定されることとなり、会員管理システムの運用管理費には来年4月からの値上げ分を含む予算額としている。これらのほか、ホームページのリニューアル、学会資料の電子化等の費用も加味しており、令和8年度は550万円の赤字予算を編成した。

審議の結果、同予算書は理事会で承認され、第48回通常総会に諮られることとなった。

## 3) 年会長と理事長の兼務に関する申し送りの確認

木村理事長より、年会に関する議題がこの後に続くことから、第22期(2021年1月~2022年12月)の理事会において議論された、年会長と理事長の兼務に関する申し送りについての経緯説明がなされた。

本件は、第22期執行部より、理事長が在任中に年会長を兼務することは利益相反の観点をも含むもので、双方が担う学会業務と責任等を考慮すると、兼務しないことが望ましいのではないかといった考え方にに基づき、2021年11月の理事会(Zoom Online)で細則改正案(下線を引いた部分の条文追加)が提出された。

=====

特定非営利活動法人日本分子生物学会 細則(抜粋)  
第2章 役員の選出  
第3条

理事長は、次の各号に掲げる方法により選任する。  
(中略)

3) 投票を行う際、その時点の当年度年会長は、新理事長には選出できない。また、新理事長任期中および任期後翌年までの年会長に決定している新理事は、新理事長には選出できない(補記留意事項：年会長は上述に該当する期間の理事長を兼ねることはできないものとする)。

=====

審議の結果、「年会長は理事長を兼ねないほうがよいとの考え方」について賛同が得られた。次いで、翌年11月の理事会(幕張)において、本件に関する前述の考え方を再度確認し、配慮するといった程度の表現で理事会内の申し送りとする事となった。

本理事会の出席者から、学会の財産状況を監査する監事についても、年会長は兼ねないのが望ましいとの意見が提出された。本件は、これまでの経緯をふまえ、細則改正を行うことなく理事会内の申し送りとする事が確認された。

## 4) 第52回(2029年)年会長について

木村理事長より、第52回年会については、年会長をがん研究会がん研究所・斉藤典子会員に依頼したいことが諮られ、承認された。

## 5) 第53回(2030年)年会長について

木村理事長より、第53回年会については、年会長を大阪大学大学院医学系研究科・林克彦会員に依頼したいことが諮られ、承認された。

## 6) 年会施設の複数年契約について

物価高騰が続くなか、本学会が年会を開催する施設の会場費や機材費もその例外ではなく、年会予算の経費は年々増加している。そこで、参加費等の上昇を回避することも念頭に事務局が各施設との協議を続けた結果、横浜会場および福岡会場から特別条件での提供を受けることが可能となった。

これを受け、木村理事長より、すでに福岡開催を決定していた第51回(2028年)以降について、第52回(2029年)を横浜、第53回(2030年)を福岡、第54回(2031年)を横浜で年会を開催する計画が提案された。ただし、第54回(2031年)の年会長は次期理事長による推薦となるため、会場予約が先行することになる点も説明された。また、今回の複数年契約をまとめるにあたり、年会長2名を同時に本理事会へ推薦する必要があると考えたこと、年会長の研究分野に近い演題が集まりやすい傾向を考慮した人選であることも報告された。

審議の結果、次期理事長への申し送りを含め、理事長提案のとおり異議なく承認された。

## 7) 年会での発表資格について(シニア会員、非会員)

現在、分子生物学会のシニア会員は年会参加が無

料であるが、発表を想定していない会員種別のため、発表を希望する場合は正会員への種別変更および正会員としての年会参加登録が必要となっている。そこで、シニア会員のままでも年会参加費を支払うことで発表ができるよう、執行部より資格要件の変更が提案され、理事会で賛同を得た。来年の第49回年会から適用する。

その来年は生化学会との合同開催となるが、生化学会大会では非会員による発表が認められていない。このため、BMB2026の参加登録カテゴリー設定にあたり、非会員区分の取り扱いについて分子生物学会での再検討が求められた。本学会では、第45回(2022年)幕張年会で非会員の発表区分を初めて導入し、その後の年会においても継続している。本件について執行部からは、会員と共に年会を盛り上げてくれている非会員の参加者を尊重しつつ、学会入会への期待も込め、年会サイトに「会員としての発表を推奨する」旨の記載を加える案が示された。

これに関し、深川竜郎第45回年会長より、企業で研究に従事している方には非会員のほうが発表しやすい場合もあるといった意見を考慮し、参加費を設定した当時の経緯が説明された。また、水島昇第49回年会長からは、分子生物学会にかぎらず、非会員による発表を認めることは学会の存在意義にも関わるものであり、慎重に検討すべき問題ではないかという指摘がなされた。その一方で、本学会は年会の運営方針を含めて非常にオープンな学会であり、会員の参加費を非会員より廉価に設定している点が、会員にとってのメリットと捉えることもできるとの考えも述べられた。さらに、他の出席理事からも会員であることのメリットとして、年会発表における賞の対象となる点が挙げられ、これに賛同するコメントが複数出された。

審議の結果、非会員による年会での発表を今後も認める一方で、各種賞の対象は会員に限定することとし、これを本理事会としてのBMB2026組織委員会への回答とすることが確認された。

#### 8) 興行中止保険について

巨大地震等の自然災害による年会中止リスクへの備えと年会長の精神的な負担軽減を目的として、本学会では2018年の理事会(横浜)において興行中止保険への加入が承認され、翌2019年の第42回年会より毎年加入してきた(2020と2021はコロナ禍で加入できず)。しかし、生化学会では同保険に加入していないことから、その必要性についてBMB2026組織委員会で議論が行われた。これを受けて執行部で検討したところ、保険料は以前より上昇しているものの、自然災害の予測は困難であり、

学会としてリスク対策を講じることは重要であるとの意見で一致した。

本理事会では、複数の出席者から、流動資産の運用に関する議論がなされた際、年会が開催不能となるような不測の事態を想定してその運用額を決定した経緯もあり、興行中止保険で年会の中止費用が補償されるのであれば加入する意義は薄いのではないかといった意見が出された。他方、年会長の精神的な負担軽減という観点からも現行程度の保険料であれば十分に費用対効果として見合うものではないか。自然災害のリスクが今後低下するとは考えにくいことから理事会として加入を推奨する方針を継続するのがよいのではないかと、といった意見も出された。これらに加え、他学会が自然災害により被災した際の事例についても紹介された。

討議の結果、興行中止保険の引受会社がある場合には、本学会における2018年の理事会方針に基づき同保険に加入することを確認した。ただし、生化学会において保険料の支出が認められないことも考えられるため、来年の第49回年会については、保険加入の最終的な判断をBMB2026組織委員会に一任することとした。

#### 9) 学会資料の電子化について

分子生物学会が創立50周年を迎えるにあたり、電子化されていない学会資料の保存を目的として、本学会の活動が記録された会報のバックナンバーから電子化に着手することを本年8月の臨時理事会(Zoom Online)で決定した。現在スキニング・チェック作業が進められている。

本理事会で検討予定であった年会のプログラムおよび要旨集の電子化については、検索に使える形とするには費用面で大きな課題がある。また、2015年以降の要旨は会員専用ページにおいて会員のみ閲覧可能となっているが、2014年以前の年会要旨の公開に関しては慎重な検討が必要と思われる。そこで、木村理事長より次の執行部案について説明がなされ、理事会の賛同を得た。

- ・公開/非公開にかかわらず段階的に電子化を進める。
- ・その対象は年会要旨集+プログラム(要旨集との重複内容は除く)とする。
- ・紙資料のPDF化を行うこととし、現状でAI-OCR一部導入の可能性がみられるか等も調査検討しながら進める。
- ・全体的なテキスト情報の精度向上についてあらためて検討するよう申し送る。
- ・費用総額としては200万円以内を想定。

杉本第50回年会長から、分子生物学会の歴史

は日本の分子生物学の歴史と重なるものであり、資料的な価値からしても電子化を進めるべきとのコメントも出された。BCP（事業継続計画）対策として、データはクラウドでバックアップする。

10) 博士課程・ポスドクへの公的資金による待遇改善について

日本の研究力改善のためには、基盤的研究費の増強に加え、若手人材への支援拡充や研究環境の改善など、多くの課題が山積しており、これらに継続的に取り組むことがきわめて重要である。本件について、木村理事長および後藤副理事長より、特に若手研究者支援が喫緊の課題である点に関して資料に基づいた詳細な説明が行われ、出席者による活発な意見交換がなされた。

審議の結果、科研費の早期倍増運動に続く取り組

みとして、DC・PDの給与ならびに採択率の引き上げを柱とした「博士課程・ポスドクの待遇改善に関する問題提起」を分子生物学会から生科連へ提案することが理事会において承認された。

上記、第24期第3回理事会の議決および確認事項を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人はここに記名する。

2025年12月2日

特定非営利活動法人 日本分子生物学会  
第24期第3回理事会  
議長 木村 宏  
議事録署名人 佐田 亜衣子  
議事録署名人 原 英二

## 特定非営利活動法人 日本分子生物学会 令和8年度(第48回)通常総会記録

日時：令和7年12月4日(木) 19:15~20:15  
場所：パシフィコ横浜 会議センター 3階 311+312(第6会場)  
社員数(正会員+名誉会員+シニア会員+次世代教育会員):  
7,716名  
出席者数：4,069名(本人出席30名、表決委任者4,039名)  
議事内容：

1. 冒頭に木村宏理事長より開会の辞が述べられた。続けて木村理事長より、定款第25条に基づき、本総会議長として鐘巻将人会員が指名された。さらに定款第29条に基づき、議事録署名は、小林武彦会員(第48回年会長兼)と木村理事長が担当することが確認された。
2. 鐘巻議長より、定款第26条(総会の定足数)に基づき、上記表決委任者(委任状)を含めて出席4,069名となり、本総会は成立する旨報告された。
3. 経過報告(事業報告)

### 1) 理事長報告

木村理事長より、事業活動全般と、下記について報告が行われた。

- ・年度会費の改定：本年9月25日にオンライン開催した令和7年度(第1回)臨時総会で年度会費改定案が承認され、10月から新しい年度会費が適用された。約20年にわたり据え置かれていた年度会費を改定することとなった背景の一つに、来年の第49回年会在日本生化学会との合同開催(BMB2026)であること、かつ日本生物物理学会とも連携を行うということがある。これら2学会は学生会員の年度会費を無料としており、分子生物学会の学生会員年度会費は改定前3,000円であった。学生会員の年度会費を減額する方向で検討する一方、学生から会員になる意思や帰属意識を持ち「お金を払っても入会したい」と思ってもらえる魅力的な学会にするべきとの意見もあった。そこで学生会員は毎年1,000円を納入する形とし(初年度は入会金1,000円・年度会費0円、次年度以降は年度会費1,000円)、正会員・次世代教育会員にはその分の負担をお願いして年度会費6,500円から1,000円の値上げを行い7,500円とすることとなった。
- ・生物物理学会との連携：生物物理学会とは現在2025年に開催される双方の年会在両学会の会員が同じ会員資格で参加・発表できることになっている。本年9月に奈良で開催された第

63回日本生物物理学会年会には分子生物学会から17名の会員が参加したとのことである。

- ・国際対応：EMBOとは近年の年会における連携に加え、ラボ運営を学ぶ1日プログラム「EMBOリーダーシップコース」開催実績を年会サテライトとしても重ねていたWiSJ(Women in Science Japan)の事業を分子生物学会が承継することになり、これに伴いキャリアパス委員会内に「次世代リーダー育成ワーキンググループ」を設置して「EMBOリーダーシップコース」の隔年開催を目指すこととなった。今年の年会後に開催を予定していたが講師の都合により見送り、来年6月に開催の見込みである。今年の年会ではEMBOのEditorであるZeljko Durdevic氏に"Poster Clinic by EMBO Press"の担当をお願いし、また学会企画/MBSJ Forum「著者からエディターへ：日本の科学を世界へ発信する橋渡しになろう」のパネリストにも加わっていただいた。
- ・科研費関係：生物科学学会連合(生科連)と連携して科研費増額要望活動を継続していく。科研費の増額については一度限りの補正予算だけでなく一般会計予算に継続して盛り込んでもらえるよう訴えていきたい。また若手支援、具体的には学振DC・PD採択率向上や採択者への支給額増額などの待遇改善に向けて博士課程学生・ポスドクへの公的支援の要望も展開していきたい。
- ・Genes to Cells(GTC)：英文誌GTCに関しては、上村匡編集長と深川竜郎編集幹事が今年1月から新たに就任し新体制となった。GTCの今後のあり方などについての検討の機会には理事長として参加し意見交換を行ってきた。良い論文が多く出ているGTCをもっと活用して盛り上げたい。ジャーナルを育ててプレゼンスを高め、日本から発信していけるよう、引き続きご支援をお願いしたい。
- ・年会長：12月2日開催の第24期第3回理事会において、第52回(2029年)年会長を齊藤典子会員(がん研究会がん研究所)、第53回(2030年)年会長を林克彦会員(大阪大学大学院医学系研究科)をお願いすることが決定した。なおコンベンション施設との複数年契約により特別条件での会場提供を受ける条件として、2029年は横浜、2030年は福岡での開催予定となる。

・情報発信：12月中には学会HPがリニューアルオープンする予定。

※理事長報告に関する詳細は12月2日開催の第24期第3回理事会記録を参照のこと。

## 2) 庶務報告

中川真一庶務幹事より以下の報告が行われた。  
会員現況：〔2025年10月31日現在〕正会員7,563名、シニア会員137名、次世代教育会員16名、学生会員4,314名、賛助会員20社、総計12,050名（前年11月対比、4名減）

## 3) 編集報告

深川編集幹事よりGTCについて報告が行われた。

・木村理事長からの報告にもあった通り、今年の1月に上村新編集長が西田栄介前編集長から引き継いで就任した。

・投稿数は堅調に推移している。2025年1月からGTCの出版形態がContinuous Publicationへ移行したことにより、校了から正式出版までのより一層の迅速化が実現している。

・新たに17名の編集委員を迎えた。

・年会初日に行われた学会企画/MBSJ Forum「著者からエディターへ：日本の科学を世界へ発信する橋渡しになろう」（上村編集長が講演を行い、深川編集幹事と共にパネリスト参加）では、プロのエディターも交えて意見交換をした。やはり大切なのは投稿と引用を呼びかけビビリティを上げることである。

・また今後については、上村編集長がGTC創刊30周年特集企画の検討を進めている。

・今年もポスター・展示会場でカバーアートタペストリーを展示中である。カバーアートなども活用してGTCを盛り上げていきたい。

## 4. 議事

### 1) 令和7年度（2025年度）決算承認の件

稲田利文会計幹事より総会資料に基づき、令和7年度活動計算書の収支について詳細報告が行われた。2025年10月28日、公認会計士宮城秀敏氏の会計監査を受け（総会資料の独立監査人の監査報告書を参照）、さらに同年11月7日に学会事務局において井関祥子監事、塩見春彦監事による監査会を実施したことが報告された。

続いて井関監事より、帳簿ならびに会計証憑類は正確に整えられており、塩見監事と共に各金融機関の通帳と残高証明書を確認し、同決算を認めたことが報告された。

出席の会員から学会HPリニューアル費用について質問があり、稲田会計幹事及び事務局より説

明がなされた。約20年ぶりとなる学会HPの全面リニューアル費用は総額で約250万円を見込んでおり、今期にその一部を前払いし次期に残額を支払う。事業費の内訳のうち「ホームページ関係の費用」の項目には学会HPの維持管理費用や会員宛メール配信での情報発信に係る費用などが含まれており、学会会計上HPリニューアル費用は次期の決算時にこの項目へ総額がまとまって計上されることとなる。なお今回のリニューアル範囲は学会HPのみであり、別途導入している協力会社の会員データ管理システム「会員専用ページ」は対象に含まれていない。

審議の結果、本決算は異議なく承認された。

2) 令和8年度（2026年度）活動予算書承認の件  
稲田会計幹事より総会資料に基づき、令和8年度活動予算書について説明が行われた。審議の結果、同活動予算書は異議なく承認された。

### 5. 第48回（2025年）年会長挨拶

小林武彦第48回年会長より2025年の年会開催状況について途中報告が行われた。

・会期：2025年12月3日(水)～5日(金)

・会場：パシフィコ横浜

年会は順調に進んでいる。参加者数・演題数いづれもコロナ禍前に迫る回復を見せている。Late-Breaking Abstract (LBA) の数も伸びており、これは学生のポスター賞 (MBSJ-EMBO Poster Award 2025) の対象にLBAも含めることとした影響もあると思われる。また本年会は完全現地開催とし、ポリティカルな理由で来日の叶わなかった演者の方などのわずかな例外を除き、横浜へお越しいただいている。協賛企業等からは「人が途切れずに集まる」と歓迎されている。

高校生発表は応募が倍増している。年会特別企画マッチングイベント『このゆび、とーまれっ “Let's gather here, in Yokohama!”』も盛況で、大学院生が集まるイベントは特に賑わっているが、オーガナイザーの見事な采配で大人数でもうまく盛り上がっている。

ポスター賞の審査は審査員の負担軽減を考慮し、応募者には早めにポスターを貼るようお願いして審査員に見ていただく現地審査のみとし、プレゼンも聞くことが望ましいが任意とした。審査にはシニアサイエンティストにも加わっていただいた。また、EMBOのEditorをお招きしポスター発表を評価いただく“Poster Clinic by EMBO Press”を本年も行っている。

本年会では試験的にAI同時通訳サービス「Sentio」を一部シンポジウム会場に導入している。現状では、

精度は話者によるといった印象であり、音声の拾い方などによっても訳出の結果が変わるのかもしれない。課題がみられるが、フィードバックを行って今後に活かせるとうい。

最終日となる明日も市民公開講座までご参加いただきたい。

#### 6. 第49回（2026年）年会長挨拶

水島昇第49回年会長より2026年の年会開催企画案と準備状況について報告が行われた。

- ・BMB2026（第49回日本分子生物学会年会・第99回日本生化学会大会 合同大会）
- ・会期：2026年12月1日（火）～4日（金）
- ・会場：パシフィコ横浜

日本生化学会との合同大会（BMB2026）として4日間の会期で開催する。大会テーマは「共鳴～広がる生命科学～」。参加者全員が共鳴してお互いに響き合い、何かを生んでいただければという思いを込めている。

会期中はスペシャルシンポジウム1枠、大会企画シンポジウム3枠を各日午前中に配置している。公募シンポジウムは120分枠：異なる分野の研究者にとっても有益となる広がりのある企画、90分枠（昼）：特定のトピックを掘り下げた企画、90分枠（夕・夜）：新しい概念の企画、と募集時に明記しており、それぞれの特徴を出したいと思っている。

サイエンスピッチを実施予定。シンポジウムへの一般演題からの採択は行わない。

開催中の第48回年会を参考にし、継続できるものはしていきたいと考えている。

#### 7. 第50回（2027年）年会長挨拶

杉本亜砂子第50回年会長より2027年の年会開催企画案と準備状況について報告が行われた。

- ・会期：2027年11月23日（火）～26日（金）
- ・会場：福岡国際会議場・マリンメッセ福岡

4日間の会期で全体的にゆったりしたスケジュールとし、ディスカッションの時間を増やせるようにしたい。

学会創立50周年記念事業の一環として、理事会との連携を行いつつ、またGTC上村編集長とも相談しながら、年会企画の検討を進めている。

年会企画として、初日から3日目までの午前・午後で1枠ずつ、分子生物学におけるそれぞれの分野の50年を振り返るセッションを設け、最終日には次の50年を見据える特別企画を行うことを検討している。節目の年会にふさわしい企画となるようにしたい。

#### 8. 鐘巻議長より閉会の挨拶があり、第48回総会が終了した。

上記、令和8年度通常総会の議決および確認事項を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人はここに記名する。

令和7年12月4日

特定非営利活動法人 日本分子生物学会  
令和8年度通常総会

議長	鐘巻 将人
議事録署名人	木村 宏
議事録署名人	小林 武彦

# 令和7年度（2025年度）決算報告

## 令和7年度（2025年度）活動計算書

令和6年10月1日から令和7年9月30日まで

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取入会金		
正会員受取入会金	372,000	
学生会員受取入会金	1,326,000	
次世代教育会員入会金	2,000	1,700,000
2 受取会費		
正会員受取会費	46,381,000	
学生会員受取会費	9,505,500	
賛助会員受取会費	920,000	
シニア会員受取会費	318,000	
次世代教育会員会費	84,500	57,209,000
3 受取寄付金	1,500,000	1,500,000
4 受取助成金	5,968,373	5,968,373
5 事業収入		
(1)学術集会、研究発表会、講演会の開催等による分子生物学に関する学術研究事業	206,860,180	
(2)分子生物学に関する機関誌及び論文図書等の発行事業	22,443,086	
(3)その他目的を達成するために必要な事業	462,000	229,765,266
6 その他収益		
受取利息	98,733	
雑収入	749,000	847,733
経常収益計		296,990,372
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費		
給与手当	12,672,113	
法定福利費	1,979,347	
福利厚生費	23,558	
人件費計	14,675,018	
(2)その他経費		
業務委託費	102,279,704	
編集業務費	6,098,072	
印刷費	9,554,220	
通信運搬費	3,102,235	
旅費交通費	21,108,009	
会議費	770,933	
支払手数料	1,979,668	
消耗品費	2,800,018	
会場費	35,330,639	
機材費	28,102,415	
諸会費	50,000	
雑費	2,243,090	
租税公課	1,072,155	
寄付金支出	100,000	
その他経費計	214,591,158	
事業費計		229,266,176
2 管理費		
(1)人件費		
給与手当	15,480,902	
法定福利費	2,419,213	
福利厚生費	28,802	
人件費計	17,928,917	
(2)その他経費		
事務所家賃	4,228,533	
業務委託費	2,384,470	
会員管理システム運用管理費	2,537,882	
印刷費	1,905,150	
通信運搬費	4,391,268	
旅費交通費	1,980,500	
会議費	240,555	
支払手数料	3,322,420	
消耗品費	1,397,185	
会場費	122,100	
雑費	1,201,704	
租税公課	3,457,400	
退職給付引当金繰入	1,945,200	
その他経費計	29,114,367	
管理費計		47,043,284
経常費用計		276,309,460
当期正味財産増加額		20,680,912
前期繰越正味財産額		187,142,303
次期繰越正味財産額		207,823,215

(単位：円)

## 令和7年度（2025年度）貸借対照表

令和7年9月30日現在

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	208,934,324		
前払費用	9,681,529		
前渡金	2,000,000		
立替金	8,169,932		
流動資産合計		228,785,785	
2 固定資産			
工具器具備品	1		
敷金	1,802,000		
固定資産合計		1,802,001	
資産合計			230,587,786
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	88,806		
未払法人税等	70,000		
未払消費税	2,464,100		
前受会費	275,500		
前受金	1,000,000		
預り金	162,765		
流動負債合計		4,061,171	
2 固定負債			
退職給付引当金	18,703,400		
固定負債合計		18,703,400	
負債合計			22,764,571
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		187,142,303	
当期正味財産増加額		20,680,912	
正味財産合計			207,823,215
負債及び正味財産合計			230,587,786

(単位：円)

# 令和7年度(2025年度) 財産目録

令和7年9月30日現在

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	51,262	
郵便振替 00110-1-901302	35,306,533	
普通預金 三菱 UFJ 銀行 春日町支店	962,483	
普通預金 三菱 UFJ 銀行 所沢支店	4,320,666	
普通預金 三井住友銀行 飯田橋支店	47,591,493	
普通預金 三井住友信託銀行 芝営業部	590,472	
普通預金 みずほ銀行 本郷支店	111,415	
定期預金 三菱 UFJ 銀行 春日町支店	30,000,000	
定期預金 三井住友銀行 飯田橋支店	30,000,000	
定期預金 三井住友信託銀行 芝営業部	50,000,000	
定期預金 みずほ銀行 本郷支店	10,000,000	
前払費用 事務所家賃 10 月分	331,529	
前払費用 2025 年分 Genes to Cells オンライン費用	4,350,000	
前払費用 第 48 回年会開催補助金	5,000,000	
前渡金 ホームページリニューアル 着手金	2,000,000	
立替金 編集経費 (2025 年 1 月分以降)	8,169,932	
流動資産合計		228,785,785
2 固定資産		
工具器具備品 電話取付一式	1	
敷金 学会事務所・編集室	1,802,000	
固定資産合計		1,802,001
資産合計		230,587,786
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 通信運搬費 (ひかり電話、メールサーバ)	55,542	
未払金 通信運搬費 (ヤマト運輸)	4,752	
未払金 雑費 (大塚商会)	6,732	
未払金 雑費 (ファイアーウォール)	10,560	
未払金 雑費 (外部倉庫)	11,220	
未払法人税等	70,000	
未払消費税	2,464,100	
前受会費 令和 8 年度以降会費	275,500	
前受金 GTC 編集費・出版社補助金	1,000,000	
預り金 源泉所得税	162,765	
流動負債合計		4,061,171
2 固定負債		
退職給付引当金	18,703,400	
固定負債合計		18,703,400
負債合計		22,764,571
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		187,142,303
当期正味財産増加額		20,680,912
正味財産合計		207,823,215
負債及び正味財産合計		230,587,786

(単位：円)

## 令和7年度(2025年度) 計算書類の注記

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

### 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO 法人会計基準（2010 年 7 月 20 日 2011 年 11 月 20 日一部改正 NPO 法人会計基準協議会）によっております。

#### (1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産の減価償却は定率法を採用しております。

#### (2) 引当金の計上基準

退職給付引当金は従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき当期末に発生していると認められる金額を計上しております。

なお、退職給付債務は期末自己都合要支給額に基づいて計算しております。

#### (3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式を採用しております。

### 2. 事業費の内訳

別紙（28 頁参照）

### 3. 固定資産の増減内訳

（単位：円）

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
工具器具備品	955,847	0	0	955,847	△ 955,846	1
敷金	1,802,000	0	0	1,802,000	0	1,802,000
合計	2,757,847	0	0	2,757,847	△ 955,846	1,802,001

### 【監査報告】

令和7年度(2025年度)決算に関して、令和7年10月28日、独立監査人 宮城秀敏公認会計士の監査を受けました。その計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる会計基準に準拠して、令和7年度の収支、正味財産増減の状況及び同年度末日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。との監査報告書の提出を受けました。その後、同年11月7日に井関祥子監事、塩見春彦監事による監査を終了しました。（両監事による会計監査は、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きにより行われた）ここにご報告いたします。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会  
第24期理事長 木村 宏  
会計幹事 稲田 利文

# 2025年度事業費の内訳

令和6年10月1日から令和7年9月30日まで

特定非営利活動法人 日本分子生物学会  
(単位:円)

科 目	(1)学術集会、研究発表会、講演会に関する学術研究事業					(2)分子生物学に関する機関誌及び論文図書等の発行事業					(3)その他の目的を達成するために必要な事業				合 計	
	第47回年会	年会その他 (年会アンケート/ 年会報告採録)	国際会議文録	会報発行	Genes to Cells 編集	Genes to Cells オンライン	ホームペー ジ 関係	社会貢献・ 教育活動	各種委員会 (各 男女共同参画・ その他)	事業費その他 (研究倫理・ その他)	事業費計	管理部門	合計			
I 経常収益																
1. 受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,700,000	1,700,000	
2. 受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57,209,000	57,209,000	
3. 受取寄付金	1,500,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,500,000	0	1,500,000	
4. 受取助成金	5,968,373	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,968,373	0	5,968,373	
5. 事業収入																
(1)学術集会、研究発表会、講演会に関する学術研究事業	206,860,180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	206,860,180	0	206,860,180
(2)分子生物学に関する機関誌及び論文図書等の発行事業	0	0	0	0	22,443,086	0	0	0	0	0	0	0	0	22,443,086	0	22,443,086
(3)その他の目的を達成するために必要な事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	462,000	0	462,000
事業収入計	206,860,180	0	0	0	22,443,086	0	0	0	0	0	0	0	0	228,765,266	0	228,765,266
6. その他収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	847,733
経常収益計	214,328,553	0	0	0	22,443,086	0	0	0	0	0	0	0	0	237,233,639	59,756,733	296,990,372
II 経常費用																
(1) 人件費																
給与手当	3,659,100	0	0	731,378	905,141	0	0	0	0	0	0	0	0	3,073,644	984,115	12,672,113
法定福利費	571,812	0	0	114,362	140,753	0	0	0	0	0	0	0	0	483,841	153,949	1,979,347
福利厚生費	6,806	0	0	1,361	1,675	0	0	0	0	0	0	0	0	5,759	1,832	23,558
人件費計	4,237,718	0	0	847,101	1,047,569	0	0	0	0	0	0	0	0	3,563,244	1,139,896	14,675,018
(2) その他経費																
事務所賃貸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,228,533
業務委託費	93,927,924	409,200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	188,000	47,160	102,279,704
編集業務費	0	0	0	0	6,098,072	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,098,072
会員管理システム運用管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,537,882
印刷費	7,138,065	0	0	2,281,400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,755	0	9,554,220
通信運搬費	1,856,540	0	0	1,174,215	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71,480	0	3,102,235
旅費交通費	20,586,509	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73,800	0	21,108,009
会議費	164,963	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	408,492	197,478	770,933
支払手数料	1,979,668	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,979,668
消耗品費	2,737,238	0	0	62,780	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,800,018
会場費	35,240,800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35,330,639
機材費	28,102,415	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	89,749	0	28,102,415
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000
雑費	1,412,300	830,790	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,243,090
租税公課	0	0	0	0	1,072,155	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,072,155
寄付金支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100,000
特定正金支出(退職給付引当金)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他経費計	193,146,812	1,239,990	0	3,518,395	7,170,227	5,717,520	1,980,000	377,280	1,146,296	294,638	214,591,588	29,114,467	214,591,588	229,266,176	47,003,284	273,309,460
経常費用計	197,384,620	1,239,990	0	4,365,496	8,217,796	5,717,520	4,308,210	1,888,470	4,709,540	1,434,534	229,266,176	47,003,284	229,266,176	7,967,463	12,713,440	20,680,912
増減額	16,943,933	△1,239,990	0	△4,365,496	14,225,290	△5,717,520	△3,846,210	△1,888,470	△4,709,540	△1,434,534	7,967,463	12,713,440	7,967,463	△1,945,200	1,945,200	0

※ 事務所の人件費(給与手当)は担当業務別に合わせ、事業費の各種日に按分計上しています。

※ 別紙、第47回年会決算の収支は、NPO法人会計基準に基づき事業内訳書にて科目振分けがなされています。

【補足資料】第47回日本分子生物学会年会収支決算書

【収入の部】

(単位：円)

項 目	内 訳	金 額	備 考
I 参加費収入		67,685,000	
1 正会員 早期	13,000×2,083名	27,105,000	
2 学生会員 早期	3,000×1,924名	5,772,000	
3 学部学生 早期	0×49名	0	
4 非会員 早期 (発表なし)	22,000×272名	5,984,000	
5 非会員 早期 (発表あり)	30,000×143名	4,290,000	
6 正会員 後期・当日	20,000×(4,473名)	9,380,000	
7 学生会員 後期・当日	4,000×469名	768,000	
8 学部学生 後期・当日	0×367名	0	
9 非会員 後期・当日	30,000×479名	14,370,000	
10 展示会参加者	2,000×8名	16,000	
II 主催団体補助金		5,000,000	
1 日本分子生物学会本部 補助金		5,000,000	
III プログラム販売		43,000	
1 オンライン要旨ID/PW販売(非会員)	10,000×4件	40,000	
2 オンライン要旨ID/PW販売(会員)	3,000×1件	3,000	
IV 助成金		5,968,573	
1 福岡観光コンベンションビューロー		1,500,000	
2 旅行会社協賛金		318,373	
3 シンポジウム・フォーラム開催助成(冠費用)	200,000×19件	3,800,000	
4 シンポジウム・フォーラム開催助成(冠費用/2団体)	350,000×1件	350,000	
V 広告関係費		2,882,000	
1 ホームページバナー広告	913,000×1式	913,000	
2 講演前後スポンサーCM(前後)	110,000×0式	0	
3 講演前後スポンサーCM(後)	88,000×0式	0	
4 スクラリーン広告	1,430,000×1式	1,430,000	
5 会議スペース壁面スポンサー	165,000×0式	0	
6 チェスビンスポンサー	88,000×2式	176,000	
7 Emailショット	165,000×2式	330,000	
8 充電スポンサー	110,000×0式	0	
9 ワークshop印刷・掲示サービス告知	33,000×1式	33,000	
VI 展示出展料		113,865,180	
1 フライムスポンサー(8コマラウンジ付)	4,400,000×1式	4,400,000	
2 フライムスポンサー(8コマラウンジ無)	4,070,000×1式	4,070,000	
3 フライムスポンサー(6コマラウンジ無)	3,080,000×1式	3,080,000	
4 スタンドトーストスポンサー(4コマ)	5,610,000×3式	16,830,000	
5 スタンドトーストスポンサー(3コマ)	1,485,000×2式	2,970,000	
6 Aタイプ※上記スポンサーシップ除く	418,000×136小間	56,848,000	
7 Aタイプ(2次)	462,000×46小間	21,252,000	
8 Bタイプ	132,000×7小間	924,000	
9 Bタイプ(2次)	154,000×0小間	0	
10 Cタイプ	242,000×22小間	5,324,000	
11 ASタイプ(セミナー付)	528,000×1小間	528,000	
12 ASタイプ(セミナー付) ※キャンセル50%請求	264,000×1小間	264,000	
13 ASタイプ(セミナー付)(2次)	539,000×3小間	1,617,000	
14 ARタイプ(新規出展割引枠)	319,000×7小間	2,233,000	
15 ARタイプ(新規出展割引枠)(2次)	363,000×6小間	2,178,000	
16 NBRP特別展示	2,567,180×10小間	25,671,800	
III 共催セミナー		22,385,000	
1 MBSJスポンサーシップ	1,650,000×0枠	0	
2 バイオテクノロジーセミナー共催費(オンライン出席なし)	1,320,000×1枠	1,320,000	
3 バイオテクノロジーセミナー共催費(オンライン出席あり)	1,100,000×12枠	13,200,000	
4 バイオテクノロジーセミナー共催費(ハイブリアット)	1,265,000×4枠	5,060,000	
5 バイオテクノロジーセミナー共催費(アカデミア)	770,000×2枠	1,540,000	
6 バイオテクノロジーセミナー共催費	220,000×4枠	880,000	
7 バイオテクノロジーセミナー共催費(出席なし)	385,000×1枠	385,000	
VIII 寄付金		1,500,000	
1 日本製薬団体連合会		1,500,000	
合 計		219,328,553	

●上記II(本部補助金)を除く収入の合計214,328,553円⇒本体会計の事業費内訳「第47回年会」経常収益計へ

【支出の部】

(単位：円)

項 目	金 額	備 考
I 事前準備関係費	35,394,190	
1 旅費・交通費	266,404	
2 システム構築費	7,155,940	
3 庁費	27,971,846	
(1) 印刷費・制作費	11,814,065	
(2) 通信・運搬費	1,505,700	
(3) 会費・旅費	121,963	
(4) 運送費	14,530,118	
II 当日運営関係費	156,572,537	
1 人件費	12,339,480	
2 旅費・交通費	2,776,100	
3 会場関係費	33,033,740	
4 機材・備品費	31,125,653	
5 看板装飾費	12,701,150	
6 展示関係費	29,131,300	
7 招請関係費	17,364,405	
8 業務委託費	18,100,709	
III 事後処理費	1,180,085	
1 会計監本費	299,370	
2 税理・会計事務経費	528,655	
3 各賞優秀賞対応費	129,060	
4 最終報告会実施費	223,000	
IV 残額(本体会計への精算)	26,181,741	
合 計	219,328,553	

●上記支出I～IIIの合計193,146,812円⇒本体会計の事業費内訳「第47回年会」経常費用の「その他経費計」へ

監査報告書

特定非営利活動法人 日本分子生物学会  
理事長 木村 宏 殿

令和7年11月7日

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

監事

井関 祥子

令和7年11月7日

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

監事

短見 春彦

私たちは、日本分子生物学会の令和7年度における財産並びに収支の状況について監査を行った。帳簿並びに関係書類の間覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した結果、計算書類は、財産並びに収支の状況を正しく示していると認める。

以上

独立監査人の監査報告書

令和7年10月28日

特定非営利活動法人 日本分子生物学会  
理事長 木村 宏 殿

宮城公認会計士事務所

公認会計士



私は、特定非営利活動法人 日本分子生物学会 の 令和6年10月1日から令和7年9月30日までの令和7年度の計算書類、すなわち、活動計算書、貸借対照表及び財産目録について監査を行った。この計算書類の作成責任は理事者にあり、私の責任は独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基礎は、私に計算書類に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積もりの評価も含め全体としての計算書類の表示を検討することを含んでいる。私は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

私は、上記の計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる会計基準に準拠して、特定非営利活動法人 日本分子生物学会 の令和7年度の収支、正味財産増減の状況及び同年度末日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会 と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 令和8年度（2026年度）活動予算書

## 令和8年度（2026年度）活動予算書

2025年10月1日から2026年9月30日まで

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取入会金		
正会員受取入会金	280,000	
学生会員受取入会金	1,320,000	1,600,000
2 受取会費		
正会員受取会費	51,000,000	
学生会員受取会費	3,000,000	
シニア会員受取会費	400,000	
次世代教育会員受取会費	100,000	
賛助会員受取会費	880,000	55,380,000
3 受取寄付金	1,000,000	1,000,000
4 受取助成金	5,700,000	5,700,000
5 事業収入		
(1)学術集会、研究発表会、講演会の開催等による分子生物学に関する学術研究事業	210,000,000	
(2)分子生物学に関する機関誌及び論文図書等の発行事業	21,000,000	
(3)その他目的を達成するために必要な事業	460,000	231,460,000
6 その他収益		
受取利息	450,000	
雑収入	50,000	500,000
経常収益計		295,640,000
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費		
給与手当	13,500,000	
法定福利費	2,100,000	
福利厚生費	40,000	
人件費計	15,640,000	
(2)その他経費		
業務委託費	103,180,000	
編集業務費	6,000,000	
印刷費	10,620,000	
通信運搬費	2,700,000	
旅費交通費	22,060,000	
会議費	750,000	
支払手数料	1,850,000	
消耗品費	2,560,000	
会場費	53,240,000	
機材費	24,300,000	
諸会費	50,000	
補助金	1,500,000	
雑費	9,580,000	
租税公課	1,000,000	
寄付金支出	100,000	
その他経費計	239,490,000	
事業費計		255,130,000
2 管理費		
(1)人件費		
給与手当	15,000,000	
法定福利費	2,300,000	
福利厚生費	60,000	
人件費計	17,360,000	
(2)その他経費		
事務所家賃	4,400,000	
業務委託費	2,500,000	
会員管理システム運用管理費	3,400,000	
印刷費	3,000,000	
通信運搬費	3,300,000	
旅費交通費	2,000,000	
会議費	400,000	
支払手数料	2,400,000	
消耗品費	600,000	
会議費	200,000	
雑費	1,500,000	
租税公課	3,000,000	
退職給付引当金繰入	1,950,000	
その他経費計	28,650,000	
管理費計		46,010,000
経常費用計		301,140,000
当期正味財産増加額		△ 5,500,000
前期繰越正味財産額		207,820,000
次期繰越正味財産額		202,320,000

(単位：円)

# 令和8年度(2026年度)活動予算事業費の内訳

特定非営利活動法人 日本分子生物学会  
(単位:円)

科目	①学術集会、研究発表会、講演会の開催等による学術研究事業		②分子生物学に関する機関誌及び論文図書等の発行事業				③その他目的を達成するために必要な事業			合計			
	第48回年会 年会 年会(年会/年会) 年会(年会/年会) 年会(年会/年会)	年会その他(年会/年会) 年会(年会/年会) 年会(年会/年会)	国際対応	会報発行	Genes to Cells 編集	Genes to Cells オンライン	ホームページ 関係	社会貢献、 教育活動	各種委員会 (キャリアパス、 男女共同参画、 その他)	事業費その他 (研究助理、 その他)	事業費計	管理部門	合計
I 経常収益													
1. 受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,600,000	1,600,000
2. 受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55,380,000	55,380,000
3. 受取寄付金	1,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000,000	0	1,000,000	1,000,000
4. 受取助成金	5,700,000	0	0	0	0	0	0	0	0	5,700,000	0	5,700,000	5,700,000
5. 事業収入	210,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0	210,000,000	0	210,000,000	210,000,000
(1)学術集会、研究発表会、講演会の開催等による学術研究事業	0	0	0	0	21,000,000	0	0	0	0	21,000,000	0	21,000,000	21,000,000
(2)分子生物学に関する機関誌及び論文図書等の発行事業	0	0	0	0	0	0	480,000	0	0	480,000	0	480,000	480,000
(3)その他目的を達成するために必要な事業	210,000,000	0	0	0	21,000,000	0	480,000	0	0	231,480,000	0	231,480,000	231,480,000
6. その他収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	500,000	500,000
経常収益計	216,700,000	0	0	0	21,000,000	0	480,000	0	0	238,160,000	0	238,160,000	238,160,000
II 経常費用													
(1) 人件費													
給与手当	3,800,000	0	0	800,000	1,000,000	0	2,200,000	1,500,000	1,000,000	13,500,000	15,000,000	15,000,000	28,500,000
法定福利費	600,000	0	0	120,000	150,000	0	350,000	230,000	150,000	2,100,000	2,300,000	2,300,000	4,400,000
福利厚生費	20,000	0	0	0	0	0	0	0	0	40,000	60,000	60,000	100,000
人件費計	4,420,000	0	0	920,000	1,150,000	0	2,550,000	1,730,000	1,150,000	15,640,000	17,360,000	17,360,000	33,000,000
(2) その他経費													
事務所家賃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,400,000	4,400,000
業務委託費	91,130,000	500,000	0	0	0	6,800,000	4,500,000	0	200,000	103,180,000	2,500,000	105,680,000	105,680,000
編集業務費	0	0	0	0	6,000,000	0	0	0	0	6,000,000	0	6,000,000	6,000,000
会員管理システム運用管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,400,000	3,400,000
印刷費	8,170,000	0	0	2,400,000	0	0	0	50,000	0	10,620,000	3,000,000	13,620,000	13,620,000
通信運搬費	1,400,000	0	0	1,200,000	0	0	0	100,000	0	2,700,000	3,300,000	6,000,000	6,000,000
旅費交通費	21,060,000	0	0	0	0	0	0	200,000	200,000	22,060,000	2,000,000	24,060,000	24,060,000
会議費	50,000	0	0	0	0	0	0	0	0	750,000	400,000	1,150,000	1,150,000
支払手数料	1,850,000	0	0	0	0	0	0	0	0	1,850,000	2,400,000	4,250,000	4,250,000
消耗品費	2,460,000	0	0	100,000	0	0	0	0	0	2,560,000	600,000	3,160,000	3,160,000
会場費	53,140,000	0	0	0	0	0	0	0	0	53,240,000	200,000	53,440,000	53,440,000
機材費	24,300,000	0	0	0	0	0	0	0	0	24,300,000	0	24,300,000	24,300,000
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	50,000	0	50,000	50,000
補助金	0	0	1,500,000	0	0	0	0	0	0	1,500,000	0	1,500,000	1,500,000
雑費	8,260,000	1,320,000	0	0	0	0	0	0	0	9,580,000	1,500,000	11,080,000	11,080,000
租税公課	0	0	0	0	1,000,000	0	0	0	0	1,000,000	3,000,000	4,000,000	4,000,000
寄付金支出	0	0	0	0	0	0	0	100,000	0	100,000	0	100,000	100,000
特定預金支出(退職給付引当金)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,950,000	1,950,000
その他経費計	211,820,000	1,820,000	1,500,000	3,700,000	7,000,000	6,800,000	4,500,000	450,000	500,000	239,490,000	28,650,000	268,140,000	268,140,000
経常費用計	216,240,000	1,820,000	1,500,000	4,620,000	8,150,000	6,800,000	7,050,000	2,180,000	1,650,000	255,130,000	46,010,000	301,140,000	301,140,000
増減額	460,000	-1,820,000	-1,500,000	-4,620,000	12,850,000	-6,800,000	-6,590,000	-2,180,000	-1,650,000	-16,970,000	11,470,000	-5,500,000	-5,500,000

※ 48回年会への本報補助金は500万円(経別途、国際対応100万円)  
年会会計の収支試算は納税準備金を含め約1,080万円の剰余金を予定(2025.10.30現在試算)

※ 事務局の人員費(給与手当等)は担当業務量に合わせ、事業費の各科目に按分計上しています。

---

## 学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、本号に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問い合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼手続きは、学会 HP に記載の詳細記事よりご確認ください。なお、財団等の推薦書類提出締切日の1カ月前を学会への応募締切としています。

提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがありますのでご注意ください。

### ■各種学術賞（学会推薦）に関する留意事項■

委員会の内規により、外部財団等の各種学術賞への推薦は、原則として一人につき年度あたり1件となっておりますので、ご了解ください。

※本学会の事業年度は10月1日から翌年9月30日までです。

重複申請があった場合、すでにある賞等の推薦が決定されている候補者は、それ以降審査する他の賞等の推薦候補者として原則的に考慮いたしません。応募に際し、ご注意くださいようお願いいたします。

### ■研究助成（学会推薦）に関する留意事項■

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。

応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いいたします。

## 学術賞、研究助成一覧

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
第 57 回三菱財団 自然科学研究助成	(公財)三菱財団 〒 100-0005 千代田区丸の内 2-3-1 三菱商事ビルディング 21F TEL : (03) 3214-5754	総額 4 億 9,000 万円	2026 年 2 月 2 日	1 件当たり 2,000 万円まで 1 件一律 400 万円 (若手)	自然科学のすべての分野にかかわる独創的かつ先駆的研究を支援。「一般助成」に加え、若手研究者を対象とした「若手助成」も実施。
山田科学振興財団 2026 年度研究援助	(公財)山田科学振興財団 〒 544-8666 大阪市生野区巽西 1-8-1	18 件程度、女性研究者 3 名以上を採択予定 (本学会の推薦枠は 6 件)	2026 年 2 月 28 日	1 件当たり 150~300 万円、 総額 4,000 万円	自然科学の基礎的研究に対する研究費援助。 研究援助趣旨： 1) 萌芽的・独創的研究 2) 新規研究グループで実施される研究 3) 学際性、国際性の観点からみて優れた研究
第 42 回国際生物学賞	国際生物学賞委員会事務局 〒 102-0083 千代田区麹町 5-3-1 麹町ビジネスセンター 日本学術振興会内 TEL : (03) 3263-1872/1869	1 件 (1 件)	2026 年 3 月 2 日	賞状、賞牌、 1,000 万円	生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ、世界の学術進歩に大きな貢献をした研究者。授賞分野は、国際生物学賞委員会が毎年決定する。第 42 回の授賞分野は「共生（種間相互作用）の生物学」。
2026 年度 持田記念学術賞	(公財)持田記念医学薬学振興財団 〒 160-0003 新宿区四谷本塩町 3-1 四谷ワイズビル TEL : (03) 3357-1282	2 件以内 (1 件)	2026 年 5 月 11 日	1 件 1,000 万円	学術賞は次の 6 項目の研究分野で、研究の進歩発展のため顕著な功績のあった研究者に贈呈。 (1) バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究 (2) バイオ技術を基盤とするゲノム機能/病態解析に関する研究 (3) 免疫/アレルギー/炎症/感染症の治療ならびに制御に関する研究 (4) 循環器/血液疾患の病態解析/治療制御に関する研究 (5) 創薬・創剤の基盤に関する研究 (6) 創薬の臨床応用に関する研究
2026 年度 研究助成		総額 3 億円 100 件	2026 年 5 月 6 日	1 件 300 万円	
2026 年度留学補助金		総額 1,000 万円 20 件	2026 年 5 月 13 日	1 件 50 万円	
2027 年度笹川科学研究助成	(公財)日本科学協会 〒 107-0052 港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5F TEL : (03) 6229-5365	生物系で 156 件 (2024 年度実績)	募集期間 2026 年* 9 月 17 日~ 10 月 15 日	1 件当たり 150 万円まで	人文・社会科学および自然科学(医学を除く)の独創性・萌芽性をもつ研究に関するもの。4 月 1 日現在、35 歳以下の若手研究者へ助成。
上 原 賞	(公財)上原記念生命科学財団 〒 171-0033 豊島区高田 3-26-3 TEL : (03) 3985-3500	2 件以内 (1 件)	2026 年* 9 月 4 日	金牌、 3,000 万円	生命科学の東洋医学、体力医学、社会医学、栄養学、薬学一般および基礎医学、臨床医学、生命科学と他分野との融合領域で顕著な業績を挙げ、引き続き活躍中の研究者。 [推薦書は上原財団webシステムにあり、事前に分生事務局へ連絡要。]
第 43 回井上學術賞	(公財)井上科学振興財団 〒 150-0036 渋谷区南平台町 15-15 南平台今井ビル 601 TEL : (03) 3477-2738	5 件以内 (2 件)	2026 年* 9 月 18 日	賞状、金メダル、 200 万円	自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を挙げた者(ただし締切日現在、50 歳未満の者)。
第 43 回井上研究奨励賞		40 件	2026 年* 9 月 18 日	賞状及び銅メダル、 50 万円	過去 3 年間に、理学・工学・医学・薬学・農学等の自然科学の基礎的研究において、新しい領域を開拓する可能性のある優れた博士論文を提出し博士の学位を取得した研究者で、37 歳未満の者。
第 19 回井上リサーチ アワード		4 名以内 (うち 1 名以上 女性研究者)	2026 年* 7 月 31 日	1 人当たり 500 万円	開拓的發展を目指す若手研究者の独創性と自立を支援する目的で、研究を助成。研究期間は 2 年。
第 35 回木原記念財団 学術賞	(公財)木原記念横浜生命科学振興財団 〒 230-0045 横浜市鶴見区末広町 1-6 横浜バイオ産業センター TEL : (045) 502-4810	1 件 (1 件)	2026 年* 9 月 30 日	賞状、 200 万円	生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている国内の研究者であり、今後のさらなる発展が大きく期待できる者。原則として締切日現在 50 歳以下を対象とする。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
第10回バイオ インダストリー大賞	(一財)バイオインダストリー協会 〒100-0005 千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー8F TEL:(03)6665-7950	1件	2026年 5月5日	賞状、賞牌、 副賞300万円	バイオサイエンス、バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーの分野の発展に大きく貢献した、または今後の発展に大きく貢献すると期待される業績を上げた個人、少人数のグループまたは組織に授与される。
第10回バイオ インダストリー奨励賞		10件程度	2026年 5月5日	賞状および 副賞30万円	バイオサイエンス、バイオテクノロジーに関連する応用を指向した研究で、 ・医薬・ヘルスケア ・食品・農林水産 ・バイオプロセス開発 ・化学・材料、環境・エネルギーなどの分野で持続的な社会と未来に貢献する優れた研究を行う有望な若手研究者を対象とする。年齢45歳未満。
住友財団2026年度 基礎科学研究助成	(公財)住友財団 〒105-0012 港区芝大門1-12-6 住友芝大門ビル2号館 TEL:(03)5473-0161	総額 2億円 80件程度	2026年* 6月30日	1件当たり500万 円まで	理学(数学、物理、化学、生物)の各分野の基礎研究で萌芽的なもの。45歳以下の若手研究者を対象とする。
住友財団2026年度 環境研究助成		総額1億円 一般研究40件、 課題研究3件 程度	2026年* 6月30日	1件当たり 最大500万円 (一般)、 最大1,000万円 (課題)	一般研究は環境に関する研究(分野は問いません)。
第68回藤原賞	(公財)藤原科学財団 〒104-0061 中央区銀座3-7-12 TEL:(03)3561-7736	2件 (推薦件数に制限なし)	2026年* 12月15日	賞状、賞牌(金メ ダル)、副賞1,000 万円	推薦の対象は自然科学分野に属するもの。わが国に国籍を有し、科学技術の発展に卓越した貢献をした者。
科学技術分野の 文部科学大臣表彰 科学技術賞および 若手科学者賞	文部科学省 研究振興局振興企画課奨励室 〒100-8959 千代田区霞が関3-2-2 TEL:(03)5253-4111(内線4071)	科学技術賞130 件程度のうち、 研究部門は50 件程度 若手科学者賞 は100名程度 (学会推薦枠は定 まっていないが推 薦は若干名まで)	2026年* 7月22日	表彰状及び副賞	科学技術賞研究部門は我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は発明を行った個人又はグループを表彰。 若手科学者賞は萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績を挙げた40歳未満の若手研究個人。
2026年度鳥津賞	(公財)鳥津科学技術振興財団 〒604-8445 京都市中京区 西ノ京徳大寺町1 TEL:(075)823-3240	1件 (推薦件数に制限なし)	2026年* 7月31日	賞状、賞牌、 副賞500万円	科学技術、主として科学計測に係る領域で、基礎的研究および応用・実用化研究において、著しい成果をあげた功労者を対象とする。 [分子生物学会が学会推薦決定者の推薦書類ファイルを鳥津財団専用サイトに登録します。詳細は学会事務局まで。]
2026年度鳥津奨励賞		3件以下 (推薦件数に制限なし)	2026年* 7月31日	賞状、トロフィー、 副賞100万円	科学技術、主として科学計測に係る領域で、基礎的研究および応用・実用化研究において独創的成果をあげ、かつその研究の発展が期待される国内研究機関所属で45歳以下の研究者を表彰する。 [分子生物学会が学会推薦決定者の推薦書類ファイルを鳥津財団専用サイトに登録します。詳細は学会事務局まで。]
鳥津科学技術振興 財団研究開発助成		総額 2,300万円	2026年* 7月31日	1件100万円	主として科学計測に係る領域全般と毎年財団が定める科学技術領域の「新分野」で独創的研究対象。国内の研究機関に所属する45歳以下の新進気鋭の研究者。国籍不問。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
東レ科学技術賞	(公財)東レ科学振興会 〒103-0021 中央区日本橋本石町 3-3-16 (日本橋室町ビル) TEL：(03) 6262-1655	2件以内 (2件)	2026年 10月9日	1件につき 賞状、金メダル、 500万円	理学・工学・農学・薬学・医学（除・臨床医学）の分野で、学術上の業績顕著な者、学術上重要な発見をした者、効果が大きい重要な発明をした者、技術上の重要問題を解決し貢献が大きい者。
東レ科学技術研究助成		総額 1億3,000万円 10件程度 (2件)	2026年 10月9日	最大3,000万円程 度まで	今後の研究の成果が科学技術の進歩・発展に貢献するところが大きいと考えられる、独創的、萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者（原則として45歳以下）。
ノバルティス研究奨励金	(公財)ノバルティス科学振興財団 〒106-6333 港区虎ノ門1-23-1 虎ノ門ヒルズ森タワー 31F TEL：(03) 6899-2100	約35件 指定機関からの 推薦必要	2026年* 9月12日	1件100万円	生物・生命科学、関連する化学および情報科学の領域における創造的な研究に対して助成。
第58回内藤記念科学振興賞	(公財)内藤記念科学振興財団 〒113-0033 文京区本郷3-42-6 南江堂ビル8F TEL：(03) 3813-3861	1件 (1件)	2026年* 9月30日	金メダル、 1000万円	人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究において、独創的テーマに取り組み、その進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。 ※応募（書類作成用）のための本学会専用URLが設定されます。詳細は学会事務局まで。
ブレインサイエンス財団研究助成	(公財)ブレインサイエンス振興財団 〒104-0028 中央区八重洲2-1-1 YANMARTOKYO 6F TEL：(03) 3273-2565	17件以内	2026年* 10月10日	1件80～100万円	脳科学の広い分野における研究に対して助成を行うが、特に脳のメカニズムを解明する独創的な研究計画の助成に重点をおく。研究分野は実験研究のみならず、理論、モデリング研究も含む。
塚原伸晃記念賞		2件以内		賞牌ならびに 副賞100万円	生命科学の分野において優れた独創的研究を行っている50歳以下の研究者。
海外派遣研究助成		若干件	2026年 1月9日	1件30万円まで	我が国における脳科学の研究の促進を図るため、国際学会、シンポジウム等への参加、あるいは短期間の研究者の海外派遣を助成。
海外研究者招聘助成		若干件		1件30万円まで	脳科学研究分野において独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の短期間の招聘を助成。
2026年 コスモス国際賞	(公財)国際花と緑の博覧会記念協会 〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2-136 TEL：(06) 6915-4513	1件	2026年* 4月12日	賞状、メダル、 副賞4,000万円	花と緑に象徴されるすべての生命現象に関し、地球的視点における生命体相互の関係性、統合の本質を解明しようとする研究や業績を対象とする。
2027年度研究助成	(公財)長瀬科学技術振興財団 〒550-8668 大阪市西区新町1-1-17 TEL：(06) 6535-2117	25件程度	2026* 10月30日	1件250万円	有機化学（材料化学を含む）及び生化学並びに関連分野における研究が助成対象。
第23回日本学術振興会賞	(独)日本学術振興会 人材育成事業部 人材育成企画課 〒102-0083 千代田区麹町5-3-1 麹町ビジネスセンター TEL：(03) 3263-0912	25件以内 機関長推薦 扱いとして 学会推薦枠 も若干件あり	2026年 4月1日～ 4月6日 (受付日)	賞状、賞碑、 研究奨励金 110万円	人文学、社会科学及び自然科学にわたる全分野が対象。博士の学位を取得しており、国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる研究者（45歳未満）。
第17回日本学術振興会有志賞		16件程度 (2名まで、※ただし推薦が男性のみの場合は1名まで)	2026年* 5月22日～ 5月27日 (受付日)	賞状、賞碑、 学業奨励金 110万円	我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程の学生を顕彰（34歳未満）。
(一財)材料科学技術振興財団 山崎貞一賞	(一財)材料科学技術振興財団 〒157-0067 世田谷区喜多見1-18-6 TEL：(03) 3415-2200	各分野 1件	2026年 4月15日	賞状、メダル、 賞金300万円	授賞対象は、「材料」、「半導体及びシステム・情報・エレクトロニクス」、「計測評価」、「バイオ・医科学」の4分野からなり、隔年で2分野ずつ募集が行われる。論文の発表、特許の取得、方法・技術の開発等を通じて、実用化につながる優れた業績をあげている者。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
令和8年度研究助成		30~35件 総額 5,000万円	2026年* 7月15日	助成金総額 約5,000万円	光科学に関係する研究に対して 助成。対象課題有り。
令和8年度 晝馬輝夫 光科学賞	(公財)光科学技術研究振興財団 〒430-0926 浜松市中央区砂山町 325-6 日本生命浜松駅前ビル 4F TEL:(053) 454-0598	1件	2026年* 6月30日	賞状楯、賞牌、 副賞 500万円	日本の光科学の基礎研究や光科学技術の発展に貢献する研究において、独自に独創的な研究業績を挙げた研究者個人。(応募締切時点で45歳未満) 外国籍の場合は、日本の大学等公的機関に5年以上在籍し、その間に対象となる研究成果の中核を形成された方。
2026年度朝日賞	朝日新聞社 CSR推進部 「朝日賞」事務局 〒104-8011 中央区築地 5-3-2	ここ最近 は4~5件 (1件)	2026年* 8月25日	正賞(ブロンズ像) と副賞 500万円	学術、芸術などの分野で傑出した業績をあげ、わが国の文化、社会の発展、向上に多大の貢献をされた個人または団体に贈られる。
第38回加藤記念 研究助成	(公財)加藤記念バイオサイエンス 研究振興財団 〒194-8533 町田市旭町 3-6-6 TEL:(042) 725-2576	M分野・B分野 計26件程度 E分野5件程度	2026年* 9月30日	M分野・B分野1 件 200万円 E分野1件 100万円	バイオサイエンスの基礎分野において、独創的かつ先駆的研究をめざす国内の若手研究者を支援する。
第16回(2027年度) 三島海雲学術賞	(公財)三島海雲記念財団 〒150-0012 渋谷区広尾 1-6-10 ジラフファビル TEL:(03) 5422-9898	自然科学部門 で2件以内 (2件)	2026年* 9月30日	賞状、 副賞 300万円	自然科学部門は、食の科学に関する研究が対象。国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により独創的で発展性のある顕著な業績を挙げている45歳未満の若手研究者。
2026年度 三島海雲学術研究 奨励金(研究助成)		全部門計 80件程度	2026年 2月28日	個人研究奨励金は 1件 150万円以下	食の科学に関する学術研究。若手研究者および女性研究者の積極的応募を期待する。
第14回ヤマト科学賞	ヤマト科学(株)内 ヤマト科学賞選考委員会事務局 〒104-6136 中央区晴海 1-8-11 晴海トリトンスクエアY棟 36F TEL:(03) 5548-7120	1件	2026年* 9月30日	賞状、賞牌、 副賞 100万円	独創性、創造性に富む、気鋭の研究者を顕彰。対象分野はライフサイエンス、マテリアルサイエンス、インフォメーションサイエンス等の自然科学、技術分野およびその融合領域分野。
2026年度 小野医学研究助成		15件程度	2026年* 6月1日 ~7月31日 (受付日)	1件 300万円	助成テーマは脂質代謝異常に伴う疾患の病態生理に関する研究(2024年度)。 ①基礎医学②臨床医学③疫学④薬学⑤その他の領域 研究奨励助成は満43歳以下に限る。
2026年度 小野医学研究奨励 助成	(公財)小野医学研究財団 〒541-8526 大阪市中央区道修町 2-1-5 TEL:(06) 6232-1960	15件程度		1件 150万円	
第10回早石修記念賞		1件 (1件)	2026年* 8月31日	正賞(楯)、 副賞 500万円	脂質研究において、独創的な研究による新しい分野の確立等、その進展に著名な功績をあげた研究者。
第31回慶應医学賞	慶應義塾医学振興基金事務室 〒160-8582 新宿区信濃町 35 TEL:(03) 5363-3609	2件[国内1名、 国外1名] (若干名)	2026年 3月1日	メダル、 副賞 1,000万円	基礎医学・臨床医学ならびに医学に密接に関連した生命科学の諸領域で活躍されている研究者が対象。
大隅基礎科学創成 財団第10期研究助成	(公財)大隅基礎科学創成財団 事務局 〒226-8503 横浜市緑区長津田町 4259 S2-16 TEL:(045) 459-6975	基礎科学 (一般)で 6~10件	2026年* 6月30日	1件 1,200万円まで	細胞・組織・個体の新しい生理現象の発見とその分子機構の解明、をテーマとする基礎研究を支援。
		基礎科学 (酵母)で 3件程度		1件 500万円まで	新しい生理現象の発見やその分子機構の解明等、人類と深い関わりのある酵母を対象としたこの生物種ならではの基礎研究をテーマとして支援。
2026年度 地神芳文記念 研究助成金	新潟薬科大学応用生命科学部分子 微生物学研究室内 (特非)酵母細胞研究会 〒956-8603 新潟市秋葉区東島 265-1	2~3件	2026年 4月17日	1件 50万円以内	酵母あるいは糖鎖に関する研究を助成。基礎あるいは応用の別を問わない。39歳以下を対象者とする。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
2027 年度 一般研究助成	(公財) 発酵研究所 〒 532-8686 大阪市淀川区十三本町 2-17-85 TEL: (06) 6300-6555	全研究課題で 66 件 (2025 年 度助成実績)	2026 年* 7 月 31 日	1 件 300 万円	研究課題あり。 (1)微生物の分類に関する研究(分 離、分類、保存)
2027 年度 大型研究助成		全研究課題で 3 件 (2025 年 度助成実績)	2026 年* 7 月 31 日	1 件 1,000 万円	(2)微生物の基礎研究(生化学、 構造、遺伝、生理、生態、進 化など) (3)微生物の応用研究(発酵、生 理活性物質、プロバイオティ クス、環境保全、バイオエネ ルギーなど)
2027 年度 若手研究者助成		全研究課題で 23 件 (2025 年 度助成実績)	2026 年* 7 月 31 日	1 件 300 万円	35 歳以下を対象とし、以下の研 究課題あり。 (1)微生物の分類に関する研究(分 離、分類、保存) (2)微生物の基礎研究(生化学、 構造、遺伝、生理、生態、進 化など)
2026 年度 (第 24 回) 高峰記念第一三共賞	(公財) 第一三共生命科学研究 振興財団 〒 103-8234 中央区日本橋 3-14-10 第一三共日本橋ビル 10F TEL: (03) 3243-9061	1 件 (若干件)	2026 年 1 月 31 日	賞状、賞牌、 副賞 2,000 万円	日本国内において、生命科学分 野での基礎・臨床研究並びに技 術開発、特に疾病の予防と治療 の進歩・発展に顕著な功績をあ げた研究者(同一分野での複数 名の同時推薦も可)や団体。
令和 8 年度 (2026 年 度) 安田記念医学財団 安田医学賞	(公財) 安田記念医学財団 〒 558-0002 大阪市住吉区长居西 2-10-10 TEL: (06) 4700-4556	1 件 (1 件)	2026 年* 6 月 30 日	1 件 1,000 万円 (研究助成金)	大学の医学部、医科大学、医学 研究所、癌中核病院等において、 癌の予防と治療に関する研究に 携わり、顕著な業績を挙げ、卓 抜した能力を有し、癌抑制に熱 意のある研究者(国内在住者)。
第 8 回太田原豊一賞	(一財) 化学及血清療法研究所 〒 860-0803 熊本市中央区新市街 8-7 TERRACE87 2C TEL: 096-297-2152	2 件 (2 件)	2026 年* 8 月 29 日	正賞(トロフィー) と副賞 1,000 万円	感染症領域及び血液領域を研究 対象とし、大きな成果のあった 者で、今後も感染症領域及び血 液領域の研究の進展に貢献が期 待される研究者。(個人・研究チ ーム・団体等を「研究者」とし受 賞の対象者とする。但し、原則 として営利法人に所属する研究 者は除く。)
2026 年度 化血研研究助成		6 件	2026 年* 6 月 30 日	1 件 2,000 万円	感染症領域(人獣含む)及び血 液領域を対象とした研究に対し て助成を行い、対象領域の発展 に寄与することを目的としたプ ログラム。
2026 年度 化血研若手研究奨励 助成		15 件	2026 年* 6 月 30 日	1 件 300 万円	感染症領域(人獣含む)及び血 液領域を対象とした次世代の研 究者の育成に資するために、将 来有望な若手研究者の研究を奨 励助成。申請締切日時時点で満 45 歳未満の者。
2026 年度 化血研ステップアッ プ研究助成		2 件	2026 年* 6 月 30 日	1 件 600 万円	感染症(人獣含む)領域及び血 液領域を対象とした次世代の研 究者の育成に資するために、将 来有望な若手研究者の研究をさ らにステップアップするための 助成。

●件数の( )内は、応募に当たり学協会等からの推薦が必要な場合、本学会の推薦枠を示しています。

\*は、本年度の案内を受取っておらず、昨年締切日を参考に示してあります。

締切日を過ぎているものは、本年度応募は終了していますが、参考資料として掲載しました。

## 第24期役員・幹事・各委員会名簿

### 理事長

木村 宏 (科学大・総合研究院)

(任期：2025年1月1日～2026年12月31日)

### 副理事長

倉永英里奈 (京大・薬/東北大・生命)、後藤由季子 (東大・薬)

### 理事

阿形 清和 (基生研/京大・名誉教授)

五十嵐和彦 (東北大・医)

石黒啓一郎 (千葉大・医)

石谷 太 (阪大・微研)

上村 匡 (京大・医学生研)

大谷 直子 (大阪公大・医)

鐘巻 将人 (遺伝研)

糸 昭苑 (科学大・生命理工学院)

胡桃坂仁志 (東大・定量研)

近藤 滋 (遺伝研)

斎藤 通紀 (京大・医)

佐田亜衣子 (九大・生医研)

塩見美喜子 (東大・理)

高橋 淑子 (京大・理)

中島 欽一 (九大・医)

中西 真 (東大・医科研)

中山 敬一 (科学大・総合研究院)

中山 潤一 (基生研)

二階堂 愛 (理研・BDR/科学大・総合研究院)

濡木 理 (東大・理)

林 克彦 (阪大・医)

原 英二 (阪大・微研)

東山 哲也 (東大・理)

三浦 恭子 (九大・医)

三浦 正幸 (基生研)

山本 卓 (広島大・ゲノム編集センター)

吉森 保 (阪大・医)

(五十音順)

### 監事

井関 祥子 (科学大・医歯)、塩見 春彦 (千葉大・cNIVR)

### 幹事

庶務幹事 岩崎 由香 (理研・IMS)、中川 真一 (北大・薬)

会計幹事 稲田 利文 (東大・医科研)

編集幹事 深川 竜郎 (阪大・生命)

広報幹事 中山 潤一 (基生研)

国際化担当幹事 岡田 由紀 (東大・定量研)

### 第24期執行部

木村理事長、倉永副理事長、岩崎庶務幹事、中川庶務幹事、稲田会計幹事、中山広報幹事、岡田国際化担当幹事

### Genes to Cells 編集長

上村 匡 (京大・医学生研)

### 賞推薦委員会

高橋淑子 (委員長)、大谷直子、二階堂愛、林 克彦、三浦正幸

### 研究助成選考委員会

塩見美喜子 (委員長)、五十嵐和彦、中島欽一、中山敬一、吉森 保

### キャリアパス委員会

胡桃坂仁志 (委員長)、甲斐歳恵、香月康宏、鐘巻将人、黒岩麻里、佐田亜衣子、篠原美紀、末次正幸、藤 泰子、平谷伊智朗、三浦恭子、三嶋雄一郎

### 次世代リーダー育成ワーキンググループ

平谷伊智朗 (WG 座長)、小宮怜奈、関根清薫、竹俣直道、寺川 剛、服部奈緒子、岡田由紀、齊藤典子

### 研究倫理委員会

糸 昭苑 (委員長)、石黒啓一郎、原 英二、東山哲也、山本 卓

### 生命科学教育

石谷 太 (担当理事)、篠原 彰 (委員)

---

## 日本分子生物学会 賛助会員一覧

(2026年2月現在)

アサヒグループホールディングス株式会社  
株式会社エー・イー企画  
一般財団法人化学及血清療法研究所  
科研製薬株式会社 新薬創生センター  
コスモ・バイオ株式会社  
株式会社 seeDNA 法医学研究所  
第一三共株式会社  
タカラバイオ株式会社 事業開発部  
株式会社ダスキン 開発研究所  
中外製薬株式会社  
株式会社東海電子顕微鏡解析  
東洋紡株式会社 バイオプロダクト営業部  
株式会社トミー精工  
ナカライテスク株式会社  
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ  
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部  
フナコシ株式会社  
三菱ケミカル株式会社  
ヤマサ醤油株式会社 R&D 管理室  
湧永製薬株式会社 研究管理部研究管理課

(20社、50音順)

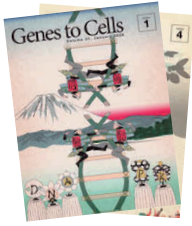
■第 49 回日本分子生物学会年会・  
第 99 回日本生化学会大会 合同大会 (BMB2026)  
公式ウェブサイト  
<https://www.aeplan.jp/bmb2026/>  
X (旧 Twitter) アカウント  
[https://x.com/BMB\\_2026/](https://x.com/BMB_2026/)

■日本分子生物学会  
公式ウェブサイト  
(2025 年 12 月リニューアル)

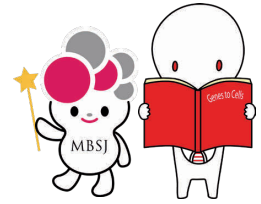


<https://www.mbsj.jp/>  
Facebook アカウント  
<https://www.facebook.com/mbsj1978/>  
X (旧 Twitter) アカウント  
[https://x.com/MBSJ\\_official](https://x.com/MBSJ_official)  
Bluesky アカウント  
<https://bsky.app/profile/mbsj.official.bsky.social>

特定非営利活動法人  
日本分子生物学会 事務局  
〒 102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5  
人材開発ビル 4 階  
TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611  
E-mail: [info@mbsj.jp](mailto:info@mbsj.jp)



# Genes to Cellsで おトクに出版



費用をかけずに  
論文を出したい

Genes to Cellsでの論文出版は  
原則として**無料**です！

このとき、最初の6ヶ月間は有償アクセス ※1  
ですが、その後は無償公開されます！

※1：論文が収録された号の出版日から起算し6ヶ月間。  
なお、分子生物学会員は無償アクセス可能です。  
手続方法は右の二次元コードからご確認ください。



即時オープンアクセス  
(OA) で出版する必要  
がある

Hybrid Journalなので、**即時のOAも選択可能**です。  
この場合、**APC (掲載料) ※2** をお支払いいただく  
**必要がありますが、各種割引があります。**

下のフローチャートを参照してください。

※2：3,800米ドル (2026年2月現在)

## APC (掲載料) 割引 フローチャート

お気軽にお問い合わせください  
Genes to Cells編集室  
office@genestocells.jp

責任著者の所属機関が  
Wiley社と転換契約を  
結んでいる ※3

Yes

大幅な割引が適用されます。

手続き方法の詳細・自己負担額は、  
所属機関にご確認ください。

No

著者のうち1人以上が  
分子生物学会の会員

Yes

会員割引 ※4 が利用可能です。  
アクセプト後に、会員氏名と  
会員番号を編集室へお知らせ  
ください。  
折り返し、クーポンコードを  
お知らせします。

No

この機会に  
分子生物学会への入会を  
ご検討ください

入会后

未入会の方は、通常の出版手続きを  
優先して行い、入会手続き完了後に  
OAの申し込みをしてください。

※3：最新のリストは、右の二次元コードからご確認  
いただけます。

※4：3,800米ドル→3,000米ドルへ割引されます。  
(2026年2月現在)



割引の併用はできません。

# The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

(年3回刊行)

**第144号** (2026年2月)

発行——特定非営利活動法人 日本分子生物学会

代表者——木村 宏